

第2次白岡市環境基本計画改訂等に
係るアンケート調査

報 告 書

令和7年1月

白 岡 市

目 次

1. 調査の目的.....	- 1 -
2. 市民アンケート調査.....	- 2 -
2-1 アンケート調査票の作成.....	- 2 -
2-2 アンケート調査票.....	- 2 -
2-3 調査概要.....	- 13 -
2-4 集計結果.....	- 14 -
3. 事業者アンケート調査.....	- 124 -
3-1 アンケート調査票の作成.....	- 124 -
3-2 アンケート調査票.....	- 124 -
3-3 調査概要.....	- 135 -
3-4 集計結果.....	- 136 -

1. 調査の目的

白岡市（以下、本市）は埼玉県東部に位置しており、南東部をさいたま市及び春日部市、南西部を蓮田市、北部を久喜市、東部を宮代町とそれぞれ接している。本市は元荒川、見沼代用水、隼人堀川、柴山沼などの水辺や、屋敷林、社寺林、里山などの樹林、水田、梨園などの田園といった自然環境に恵まれている。本市では、2011年1月に白岡町環境基本条例（現白岡市環境基本条例）を施行し、同条例に基づき2011年3月に白岡町環境基本計画を、2016年3月に改定版となる白岡市環境基本計画【改訂版】を、2021年に第2次白岡市環境基本計画を策定している。

本調査は、第2次白岡市環境基本計画の改訂に当たり、市民や事業者を対象にアンケートを実施し、環境に対する意識の現状把握及び分析することを目的として実施した。

2. 市民アンケート調査

2-1 アンケート調査票の作成

調査票の作成に当たり、過年度（H22～R2）のアンケート実施状況を整理し、今年度（R6）において「継続的に実施する設問」、「継続の実施を再検討する設問」を検討した。

調査票については、下表に示すように、「問9 市民の自主的な環境づくりへの参加意欲」について、年々参加意欲の低下が見られたため、どのような環境づくり活動が市民に求められているのかを把握し、関連する施策の検討に活用できるよう、参加してみたい自主的な環境づくり活動は何かを問う設問への変更を行った。また、現行計画の改訂版では地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の追加を予定しているため、脱炭素に関連するEVや再エネ発電設備等の導入状況に関する設問として、「(5) 地球温暖化対策について」という項目を新設し、下記の間17から問21までを追加した。

表 2-1-1 設問の実施状況と追加・変更理由

設問	内容	R6	R2	H27	H22	追加・変更理由/アウトプットイメージ
(1) 属性	性別、年齢、居住地区	継続	○	○	○	
(2) 回答者の生活を取り巻く環境について	問1 居住する地域を中心とした環境の快適さ	継続	○	○	○	
	問2 白岡市において気にかかる環境問題	継続	○	○	○	
	問3 白岡市の自然を守るために進めるべき取組	継続	○	○	○	
	問4 リサイクルや省エネルギーについての関心	継続	○	○	○	
	問5 リサイクルや省エネルギーに関して行っている取組	継続	○	○	○	
	問6 リサイクルや省エネルギーに関する取組を行わない理由	継続	○	○	○	
	問7 リサイクルや省エネルギーを進める上で行うべき取組	継続	○	○	○	
	問8 SDGsの認知度	継続	○			
(3) 環境づくりへの参加や役割について	問9 市民の自主的な環境づくりへの参加意欲 →変更案：参加してみたい自主的な環境づくり活動	変更	○	○	○	年々参加意欲が低下しているため、問い方を工夫してどのような環境づくり活動が市民に求められているのかを把握し、関連する施策の検討に活用
	問10 市民の自主的な環境づくりに参加したいと思わない理由	継続	○	○	○	
	問11 市民が白岡市の環境づくりに参加するために、市が重点的に取り組むべきこと	継続	○	○	○	
	問12 白岡市の環境を守り改善していくために望ましい役割分担	継続	○	○	○	
(4) 市の環境行政の在り方について	問13 環境基本計画の取組の効果	継続	○			
	問14 重点的に取り組むべき環境基本計画の施策	継続	○			
	問15 環境基本計画で位置付けられた市民の取組に関する実施状況	継続	○			
	問16 環境基本条例及び環境基本計画の認知度	継続	○			
(5) 地球温暖化対策について	問17 省エネ家電（冷蔵庫、テレビ、エアコン）の導入状況	新規				現在の省エネ機器・設備、再エネ設備等の保有状況と、今後の導入の意向を把握し、特に区域施策編の目標設定や施策の検討に活用
	問18 再エネ設備（太陽光発電、蓄電池、太陽熱温水器、高効率給湯器）の導入状況	新規				
	問19 次世代自動車（ハイブリッド車、PHV・EV、FCV）への買い替えの意向	新規				
	問20 家庭の電気やガス等のエネルギー使用状況	新規				
	問21 市で実施している補助メニューの認知度	新規				
(6) 自由記述		継続	○	○	○	補助メニューの浸透度を把握しつつ普及啓発にも活用

2-2 アンケート調査票

次頁以降にアンケート調査票を示す。なお、アンケートは、回答率向上を狙い、郵送とWEBを併用した。

環境に関する市民アンケート調査のお願い

日頃、市政に深いご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

本市では、水と緑が織りなす恵まれた自然環境を次世代に引き継ぎ、持続可能な社会を構築するため、「白岡市環境基本条例」に基づく「第2次白岡市環境基本計画」を策定し、環境保全の取組を推進しています。現在は、脱炭素社会の実現に向けた機運の高まりやライフスタイルの変化に対応するため、計画の見直しの基礎調査等の準備作業を進めております。

環境基本計画は、市民・事業者・行政が協力し、協働によって、誰もが住みやすい快適な環境を築き上げるための、本市における環境行政の根幹となる計画となります。このため、策定・見直しに当たっては、皆様の貴重なご意見やご要望を計画に反映させていただきたいと考えております。

つきましては、本調査の趣旨をご理解の上、今回の市民アンケート調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和6年8月 白岡市長 藤井 栄一郎

<本アンケートについて>

- ・このアンケートは、本市の「環境基本計画」に、市民の皆さまのご意見を反映するために行うもので、他の目的に使用することは一切ありません。
- ・すべての調査は無記名で行います。個人のお名前や情報が外部に公表されることはありません。

<アンケートのご記入に当たって>

- ・ご回答方法は、「①本アンケート用紙に直接ご記入」または、「②ウェブでのご入力」のどちらか一方をお選びください。

【①本アンケート用紙に直接ご記入いただく場合】

- ・アンケートにお答えいただき、**8月23日（金）**までに、ポストへ投函するか、市役所2階の環境課までお持ちください。

【②ウェブでのご入力いただく場合】

- ・右のQRコードから、**8月23日（金）**までに、回答してください。



■問合せ先

担当課 白岡市 生活経済部 環境課
電話番号 0480-92-1111（内線：284・285）

【参考】

第2次白岡市環境基本計画の概要

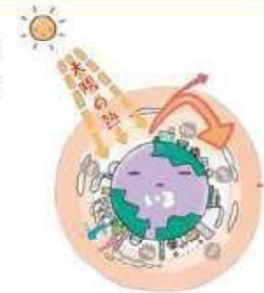
第2次白岡市環境基本計画では、望ましい環境像として、『**青空が広がる自然と豊かな心を育む “持続可能” なまち しらおか**』を定め、その達成に向け3つのプロジェクトを推進しています。



白岡市では、この望ましい環境像を目指し、「市・市民・事業者」の三者協働により、持続可能な環境づくりに取り組んでいます。

ゼロカーボン（脱炭素）とは？

近年、猛暑日の増加や、大型台風・ゲリラ豪雨の頻発などの気候変動が問題となっています。このような気候変動は、私たちが排出した二酸化炭素による地球温暖化が原因とされています。



地球温暖化のイメージ図
(環境省 こども環境白書を編集)

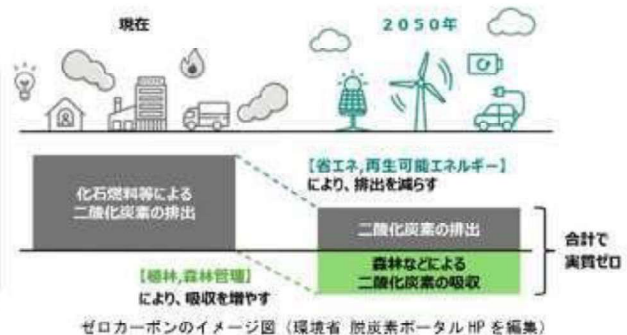
＜地球温暖化のメカニズム＞

- ① 太陽からの熱で地上が温まり、一部は宇宙に反射する
- ② 反射した熱を二酸化炭素などが吸収・再反射する（温室効果）
- ③ 二酸化炭素などが増えると、地球に跳ね返る熱が増え、気温が上がる

白岡市では、地球温暖化を抑制するために、令和5年6月に『**白岡市ゼロカーボンシティ宣言**』を行い、2050年までに温室効果ガスの排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を実現するための取組を推進しています。

＜ゼロカーボンシティとは＞

図のように二酸化炭素の排出量から吸収量を差し引いて合計が実質ゼロになった状態を**ゼロカーボン（脱炭素）**と呼びます。市の全域でこの状態を達成することを、『**ゼロカーボンシティ**』と呼びます。



ゼロカーボンのイメージ図（環境省 脱炭素ポータル HP を編集）

温室効果ガスは、日常生活や経済活動に伴って排出されるため、ゼロカーボンの実現に向けては、**私たち一人ひとりの取組が大切です。**

3. 次に、環境づくりへの参加についてお伺いします。

問9：市民の自主的な環境づくり活動が実践された場合、どのような活動に参加したいと思いますか。あてはまる番号を全て選んで○で囲んでください。

1：自然観察会や環境学習会	}	問11へ進んでください
2：環境保全団体等が主催する自然保護活動		
3：田畑の管理・保全や農業体験		
4：植樹やガーデニング等の地域の緑化活動		
5：河川等の水辺周辺の保全やボランティア活動		
6：ごみゼロ・クリーン運動等の地域の清掃・美化活動		
7：文化財保護活動や学習会		
8：脱炭素社会構築のためのキャンペーンへの参加		
9：グリーンツーリズムなどのエコツアー		
10：地域の防災活動		
11：その他（		
12：参加したいとは思わない	}	問10へ進んでください

問10：問9で「参加したいとは思わない」と回答した方にお伺いします。それはどのような理由によるものですか。あてはまる番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

1：興味がない
2：多忙であり、時間がとれない
3：体力的に無理
4：市民よりも行政や企業が解決すべき問題である
5：その他（

問11：あなたを含め、市民が白岡市の環境づくりに参加するために、市が重点的に取り組むべきだと思う番号を2つまで選んで○で囲んでください。

1：市の環境の状況や環境問題に関する情報公開
2：環境問題に関する講演会や学習講座の開催
3：各行政区や自治会等によるごみゼロ・クリーン運動などの清掃活動、美化活動の促進
4：環境活動のリーダーとなる人材の育成や協力
5：自主的に環境問題に取り組む企業や組織、サークル等への積極的支援
6：市民が集まったり、活動できる場の提供
7：環境問題を討議するため市民、事業者、市からなる活動組織の構築
8：その他（

問12：白岡市の環境を守り、改善していくための役割分担について、あなたが望ましいと思う番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

1：市が主体となって環境を守るための仕事をし、市民や事業者は協力する
2：市民や事業者が主体となって環境を守るための活動を行い、市はその支援をする
3：環境を破壊している個人や事業者が責任を持って環境を守る
4：市民、事業者、市がそれぞれの責任を果たすとともに、三者が協力しながら環境を守り、育てる
5：その他（

4. 次に、市の環境行政の在り方についてお伺いします。

問 13：白岡市の環境基本計画で実施している主な環境施策は以下のとおりです。それぞれの施策の効果について、設問ごとにあてはまる番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

項目		効果があったと思う	効果があったとは思えない	よくわからない
自然環境	歴史に息づく緑の保全と創造	1	2	3
	生活とともに育まれた水路の保全と創造	1	2	3
	健全な生物多様性の保全	1	2	3
生活環境	大気環境の保全	1	2	3
	水質環境の保全	1	2	3
	騒音・振動の防止	1	2	3
	総合的な公害の防止	1	2	3
快適環境	すぐれた景観の確保	1	2	3
	快適でくつろげる空間の確保	1	2	3
	歴史・文化の保護	1	2	3
	計画的なまちづくりの推進	1	2	3
	まちの安全対策の推進	1	2	3
	ごみの不法投棄の防止	1	2	3
	環境美化活動の推進	1	2	3
地球環境	温暖化対策に向けた緩和策の推進*	1	2	3
	温暖化対策に向けた適応策の推進*	1	2	3
	3R（リユース、リデュース、リサイクル）の推進	1	2	3
	安心安全で環境にやさしいごみ処理の推進	1	2	3
人づくり	環境教育・学習の推進	1	2	3
	環境保全のための意識啓発活動の推進	1	2	3

【※参考】温暖化対策に向けた「緩和策」と「適応策」について

温暖化の対策には、省エネ・再エネ導入などにより温室効果ガス排出量を削減する「緩和策」と、気候変動の悪影響（気温上昇による農作物への影響、頻発化する台風などによる自然災害）を軽減する「適応策」の2つの取組が重要です。

市の「緩和策」の推進事例	市の「適応策」の推進事例
<ul style="list-style-type: none"> ・省エネ行動の推進 ・再エネの導入・活用の推進 ・公共交通機関の利用やエコドライブの推進 ・脱炭素社会構築のための行動促進キャンペーンの周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・水路改修等の流水対策の推進 ・ハザードマップの周知徹底 ・市民の防災意識向上の推進 ・熱中症予防の呼びかけ ・公共施設を涼み処として開放



緩和と適応のイメージ図（気候変動適応情報プラットフォームより）

II. 生物多様性の保全・創出

項目	実施している	時々実施している	あまり実施していない	まったく実施していない
⑨敷地内に実のなる木を植えるなど鳥や昆虫を守っている	1	2	3	4
⑩市内の生き物について、在来種の保全、外来種の駆除に協力したり、心掛けるようにしている	1	2	3	4
⑪市のきれいな水環境を守ることを意識し、台所や風呂など、日常生活から出る排水に気を配っている	1	2	3	4
⑫環境保全団体が主催する自然保護活動に参加している	1	2	3	4
⑬農業を営んでいる、または農業体験などに参加している	1	2	3	4
⑭市内に生息する生き物の状況や保全に関心を持っている	1	2	3	4

III. 環境を学び行動する市民の増加

項目	実施している	時々実施している	あまり実施していない	まったく実施していない
⑮市の環境保全に対する取組や、環境関連のイベントや行事に参加している	1	2	3	4
⑯自然観察会や、ごみ問題、地球環境問題など環境学習の機会に参加するようにしている	1	2	3	4
⑰家庭で環境問題について話し合うことがある	1	2	3	4
⑱環境に関連する団体に参加したり、交流を持ったりしている	1	2	3	4
⑲グリーンツーリズムなどのエコツアーに参加している	1	2	3	4
⑳食に関する正しい知識を身につける「食育」に取り組んでいる	1	2	3	4

問 16：白岡市の環境基本条例や環境基本計画について、知っていますか。あてはまる番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

条例・計画	名前も内容も知っている	名前は知っているが内容は知らない	名前も内容も知らない
白岡市環境基本条例	1	2	3
白岡市環境基本計画	1	2	3

5. 最後に、地球温暖化対策についてお伺いします。

問 17：あなたのご家庭で使用している家電（冷蔵庫・テレビ・エアコン）の購入時期について、あてはまる番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

家電	購入時期				
	1年未満	1～3年前	3～10年前	10年以上前	わからない
①普段使用している冷蔵庫	1	2	3	4	5
②普段使用しているテレビ	1	2	3	4	5
③普段使用しているエアコン	1	2	3	4	5

問 18：ご家庭の再生可能エネルギー等の設備に関して、現在の導入状況や今後の導入予定について、あてはまる番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

設備		すでに導入済み	今後導入予定	予定はないが、導入してみたい	導入するつもりなし
①	太陽光発電	1	2	3	4
②	蓄電池（電気を蓄える機能を持った充電装置）	1	2	3	4
③	太陽熱温水器（太陽の熱を利用してお湯を作る装置）	1	2	3	4
高効率給湯器	④自然冷媒ヒートポンプ給湯器（エコキュート等）	1	2	3	4
	⑤家庭用コージェネレーション（エコファーム等）	1	2	3	4
	⑥潜熱回収型給湯器（エコウォース等）	1	2	3	4

問 19：ご家庭の車両について、現在の所有状況にあてはまる番号を1つだけ選んで○で囲んでください。また、現在の所有台数と将来の予定台数がわかる方は、台数をご記入ください。（将来については、予定を含めた希望的観測でも構いません。わからない場合は空欄のまままでご提出ください。）

車両	所有している	所有していない	現在の保有台数（2024年）	将来の予定台数（2030年頃）
例) ガソリン・ディーゼル車（普通）	①	②	2台	1台
①ガソリン・ディーゼル車（普通）	1	2	__台	__台
②ガソリン・ディーゼル車（軽）	1	2	__台	__台
③ハイブリッド車 ^{※1}	1	2	__台	__台
④PHV・EV（電気自動車） ^{※2}	1	2	__台	__台
⑤燃料電池自動車（FCV） ^{※3}	1	2	__台	__台

※1：ハイブリッド車は、ガソリン・ディーゼルエンジンと電気モーター等の複数の動力源を組み合わせて走る自動車。外部から補充できるエネルギーは、ガソリン・ディーゼルのみ。

※2：PHVは、ハイブリッド車に対し、充電スタンドなどの外部電源から車両のバッテリー（蓄電池）に充電できる自動車。EVは、動力が電気のみで、バッテリー（蓄電池）に蓄えた電気でモーターを回転させて走る自動車。

※3：燃料電池自動車は、充填した水素と空気中の酸素を反応させて燃料電池で発電し、その電気でモーターを回転させて走る自動車。

問 20：ご家庭で使用しているエネルギーについてお聞きします。エネルギーの使用状況について、あてはまる番号を1つだけ選んで○で囲んでください。また、直近の年間使用量（1月～12月）がわかればご記入ください。（直近の月明細からおおよその年間使用量を計算して記入いただいても構いません。わからない場合は空欄のままでご提出ください。）

エネ種	使用状況		年間使用量 【1月～12月】	参考
	使用している	使用していない		
例) 電気	①	②	約 4,000 kWh	
①電気	1	2	約 _____ kWh	1か月の電気代約 11,000 円で、年間約 4,000kWh の使用量
②都市ガス	1	2	約 _____ m ³	1か月の都市ガス料金 7,000 円で、年間約 480m ³ の使用量
③プロパンガス	1	2	約 _____ m ³	1か月のプロパンガス料金 8,000 円で、年間約 120m ³ の使用量
④灯油	1	2	約 _____ ㍴	灯油 18L タンクあたり約 1,900 円
⑤ガソリン	1	2	約 _____ ㍴	自動車に満タンに給油した場合、1回あたり軽自動車約 30L、普通車約 50L の使用量
⑥軽油	1	2	約 _____ ㍴	
⑦重油	1	2	約 _____ ㍴	
⑧木材(薪・ペレット)	1	2	約 _____ Kg	

問 21：白岡市では、省エネ機器や再エネを積極的に導入することで温室効果ガスの排出削減や脱炭素社会への推進に寄与する方に対し、補助金を交付しています。あなたは、白岡市で実施している補助メニューについて知っていますか。あてはまる番号を①・②のそれぞれ1つだけ選んで○で囲んでください。

補助メニュー	①認知	②利用状況・意向				
		A 知っている			B 知らない	
		利用したことがある	利用してみたい	利用する予定はない	利用してみたい	利用する予定はない
1. 白岡市住宅用創エネ・省エネ機器設置補助金※（実施中）	1：知っている→Aへ 2：知らない→Bへ	③	④	⑤	⑥	⑦
2. 重点対策加速化事業 太陽光発電設備等設置費補助金（実施中）	1：知っている→Aへ 2：知らない→Bへ	③	④	⑤	⑥	⑦

【※参考】白岡市住宅用創エネ・省エネ機器設置補助金（その他詳しい情報は、白岡市 HP をご覧ください）

○住宅用太陽光発電システム：3万円 ○住宅用 LED 照明機器：最大 5 千円

○定置用リチウムイオン蓄電池：3万円 ○V2H 充放電設備：3万円 ○EV・PH(E)V：5万円

●最後に、白岡市の環境へのご要望や、あなた自身のお考えをご自由にお聞かせください。

該当する番号を選んで○で囲み、余白にご要望やお考えをご記入ください。

- ①：自然環境 ②：生活環境 ③：快適環境 ④：地球環境・脱炭素
⑤：人づくり（普及啓発等） ⑥：環境づくり活動 ⑦：補助金 ⑧：市の環境行政

これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

2-3 調査概要

■調査対象

・調査対象地域	白岡市全域
・調査対象	市内在住の市民
・サンプル数	1,500 票
・抽出方法	住民基本台帳からの無作為抽出
・調査方法	郵送配送・郵送回収 + web アンケート方式
・調査期間	令和 6 年 7 月 31 日～8 月 23 日
・調査結果 (回収数)	480 票 (郵送:348+web:132) /1,500 票 【前回(R2) : 427 票/1,000 票】
・調査結果 (回収率)	32.0% 【前回(R2) : 42.7%】

■調査内容 (設問項目)

(1) 属性

性別、年齢、居住地区

(2) 回答者の生活を取り巻く環境について

- 問 1 居住する地域を中心とした環境の快適さ
問 2 白岡市において気にかかる環境問題
問 3 白岡市の自然を守るために進めるべき取組
問 4 リサイクルや省エネルギーについての関心
問 5 リサイクルや省エネルギーに関して行っている取組
問 6 リサイクルや省エネルギーに関する取組を行わない理由
問 7 リサイクルや省エネルギーを進める上で行うべき取組
問 8 SDGs の認知度

(3) 環境づくりへの参加や役割について

- 問 9 参加してみたい自主的な環境づくり活動
問 10 市民の自主的な環境づくりに参加したいと思わない理由
問 11 市民が白岡市の環境づくりに参加するために、市が重点的に取り組むべきこと
問 12 白岡市の環境を守り改善していくために望ましい役割分担

(4) 市の環境行政の在り方について

- 問 13 環境基本計画の施策の効果
問 14 重点的に取り組むべき環境基本計画の施策
問 15 環境基本計画で位置付けられた市民の取組に関する実施状況
問 16 環境基本条例及び環境基本計画の認知度

(5) 地球温暖化対策について

- 問 17 省エネ家電 (冷蔵庫、テレビ、エアコン) の導入状況
問 18 再エネ設備 (太陽光発電、蓄電池、太陽熱温水器、高効率給湯器) の導入状況
問 19 次世代自動車 (ハイブリッド車、PHV・EV、FCV) への買い替えの意向
問 20 家庭の電気やガス等のエネルギー使用状況
問 21 市で実施している補助メニューの認知度

(6) 自由記述

2-4 集計結果

(1) 属性

■性別【単独回答】

- ・今回から選択肢に無回答を追加した。
- ・回答者は男性が 40.6%、女性が 53.3%と女性が若干多くなっている。

※令和 6 年 7 月 1 日時点の総人口では、男性 49.6%、女性 50.4%となっている。

※過去の傾向や昨今の社会情勢から、男女別のクロス集計は行わない。

※以降のグラフ、表については、四捨五入の関係によりパーセンテージの合計が 100%にならない場合がある。

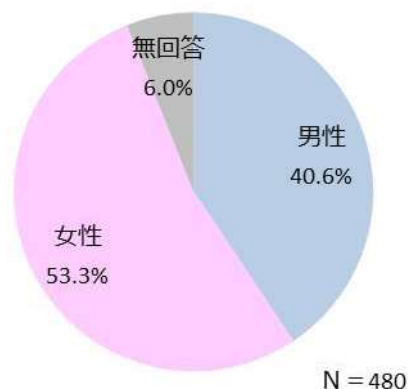


図 2-4-1 回答者の性別

■年齢【単独回答】

- ・回答人数の構成比は、70 代以上が 22.3%と最も多く、次いで 60 代が 20.4%、50 代が 18.8%と 50 代以上が全体の 50%以上を占めている。
- ・令和 6 年 7 月 1 日時点での年齢別人口構成比に対し、おおよそ同程度の比率となるような送付人数となっている。
- ・若年層は回答率が低く、高齢者層ほど回答率が高いため、年齢別人口構成比に対し、回答者の構成比は若年層が小さく、高齢者層は大きくなっている。

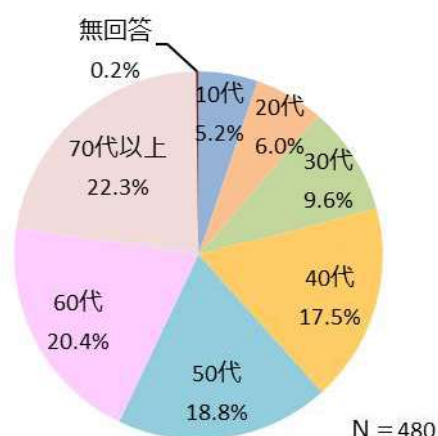


図 2-4-2 回答者の年齢

表 2-4-1 年齢別送付状況と回答状況

年代	総人口 (R6/7/1)		送付人数		回答人数		
	総人口	構成比	送付人数	構成比	回答人数	構成比	回答率
10代未満	3,970	-	-	-	-	-	-
10代	4,498	9.3%	124	8.3%	25	5.2%	20.2%
20代	5,114	10.5%	178	11.9%	29	6.0%	16.3%
30代	6,033	12.4%	201	13.4%	46	9.6%	22.9%
40代	7,015	14.4%	259	17.3%	84	17.5%	32.4%
50代	7,798	16.1%	284	18.9%	90	18.8%	31.7%
60代	6,151	12.7%	218	14.5%	98	20.4%	45.0%
70代以上	11,940	24.6%	236	15.7%	107	22.3%	45.3%
合計	52,519	100.0%	1,500	100.0%	480	100.0%	32.0%

■居住地区（大字別）【単独回答】

- ・回答人数の構成比は、大字別では、小久喜地区が22.5%と最も多く、次いで新白岡地区が17.1%、西地区が12.7%となっている。
- ・送付は、令和6年7月1日時点での居住地区別人口構成比を踏まえ実施。
- ・回答率が低い岡泉地区、彦兵衛地区等で居住地区別人口構成比に対し、回答人数の構成比が小さくなっている。

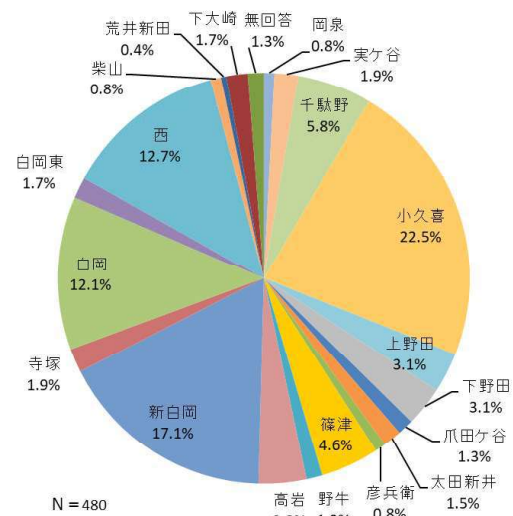


図 2-4-3 回答者の居住地区（大字別）

表 2-4-2 居住地区別送付状況と回答状況（大字別）

居住地区		総人口 (R6/7/1)		送付人数		回答人数		
大字名	地域名	総人口	構成比	送付人数	構成比	回答人数	構成比	回答率
岡泉	F	768	1.5%	22	1.5%	4	0.8%	18.2%
実ヶ谷	F	863	1.6%	23	1.5%	9	1.9%	39.1%
千駄野	D	2,659	5.1%	77	5.1%	28	5.8%	36.4%
小久喜	D	11,410	21.7%	343	22.9%	108	22.5%	31.5%
上野田	F	2,171	4.1%	52	3.5%	15	3.1%	28.8%
下野田	F	1,245	2.4%	30	2.0%	15	3.1%	50.0%
爪田ヶ谷	F	414	0.8%	14	0.9%	6	1.3%	42.9%
太田新井	F	1,041	2.0%	32	2.1%	7	1.5%	21.9%
彦兵衛	F	938	1.8%	21	1.4%	4	0.8%	19.0%
篠津	B	3,444	6.6%	95	6.3%	22	4.6%	23.2%
野牛	E	420	0.8%	12	0.8%	6	1.3%	50.0%
高岩	E	1,902	3.6%	54	3.6%	18	3.8%	33.3%
新白岡	E	9,028	17.2%	267	17.8%	82	17.1%	30.7%
寺塚	B	407	0.8%	11	0.7%	9	1.9%	81.8%
白岡	D	6,475	12.3%	180	12.0%	58	12.1%	32.2%
白岡東	D	822	1.6%	26	1.7%	8	1.7%	30.8%
西	C	7,167	13.6%	201	13.4%	61	12.7%	30.3%
柴山	A	494	0.9%	16	1.1%	4	0.8%	25.0%
荒井新田	A	226	0.4%	6	0.4%	2	0.4%	33.3%
下大崎	A	625	1.2%	18	1.2%	8	1.7%	44.4%
無回答	-	-	-	-	-	6	1.3%	-
合計	-	52,519	100.0%	1,500	100.0%	480	100.0%	32.0%

■居住地区（地域別）【単独回答】

地域別集計は、回答者が居住する地区を、下表のとおり 6 地域にまとめて集計した。以降、居住地区別のクロス集計を行う場合、この 6 地域でのクロス集計を行う。

表 2-4-3 地域区分

地域	居住地区
A	柴山、新井新田、下大崎
B	篠津、寺塚
C	西
D	千駄野、小久喜、白岡、白岡東
E	野牛、高岩、新白岡
F	岡泉、実ヶ谷、上野田、下野田、爪田ヶ谷、太田新井、彦兵衛

- ・ 回答人数の構成比は、D 地域が最も多く 42.1%、次いで E 地域が 22.1%、C 地域が 12.7%となっている。

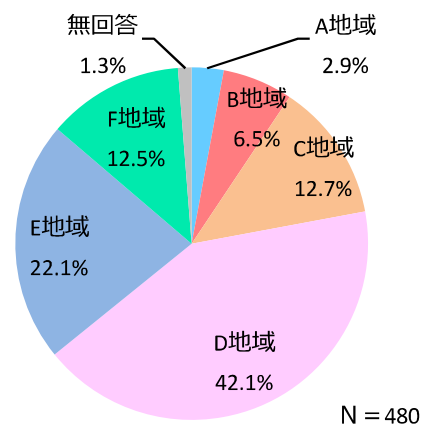


図 2-4-4 回答者の居住地区（地域別）

表 2-4-4 居住地区別送付状況と回答状況（地域別）

地域名	総人口 (R6/7/1)		送付人数		回答人数		
	総人口	構成比	送付人数	構成比	回答人数	構成比	回答率
A 地域	1,345	2.6%	40	2.7%	14	2.9%	35.0%
B 地域	3,851	7.3%	106	7.1%	31	6.5%	29.2%
C 地域	7,167	13.6%	201	13.4%	61	12.7%	30.3%
D 地域	21,366	40.7%	626	41.7%	202	42.1%	32.3%
E 地域	11,350	21.6%	333	22.2%	106	22.1%	31.8%
F 地域	7,440	14.2%	194	12.9%	60	12.5%	30.9%
無回答	-	-	-	-	6	1.3%	-
合計	52,519	100.0%	1,500	100.0%	480	100.0%	32.0%

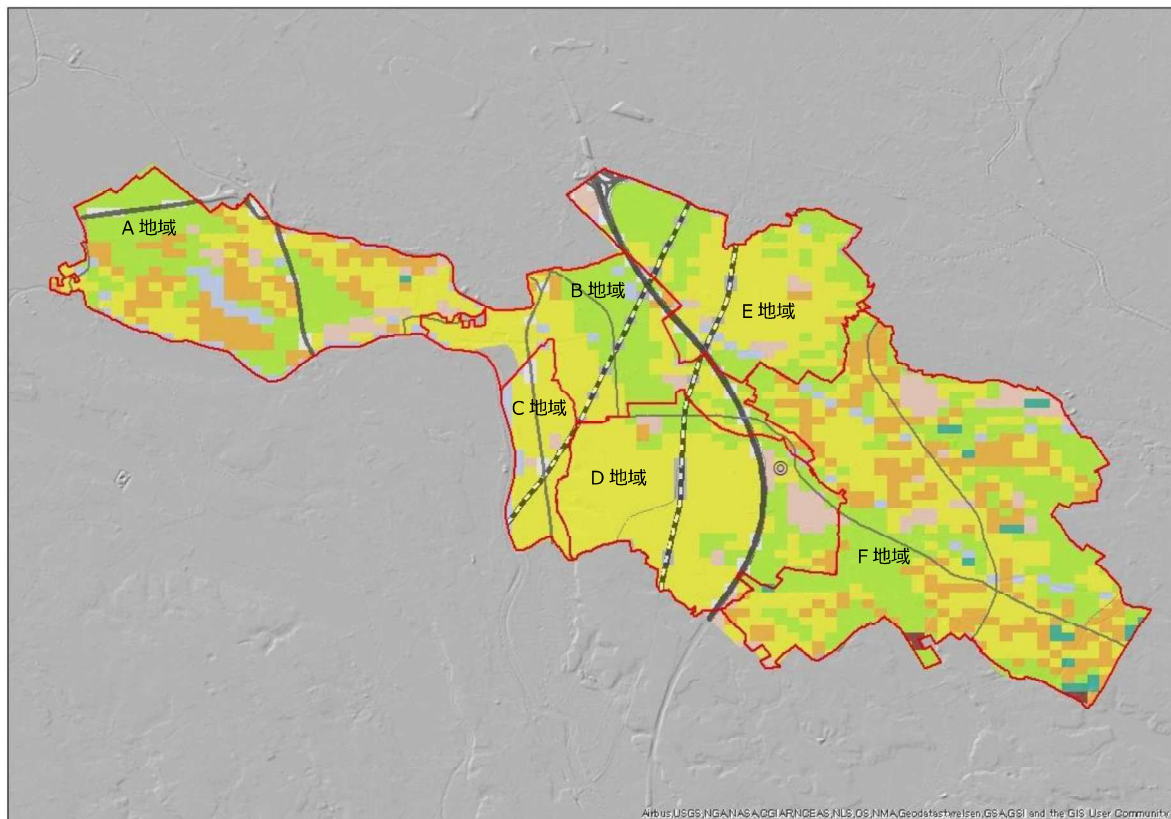
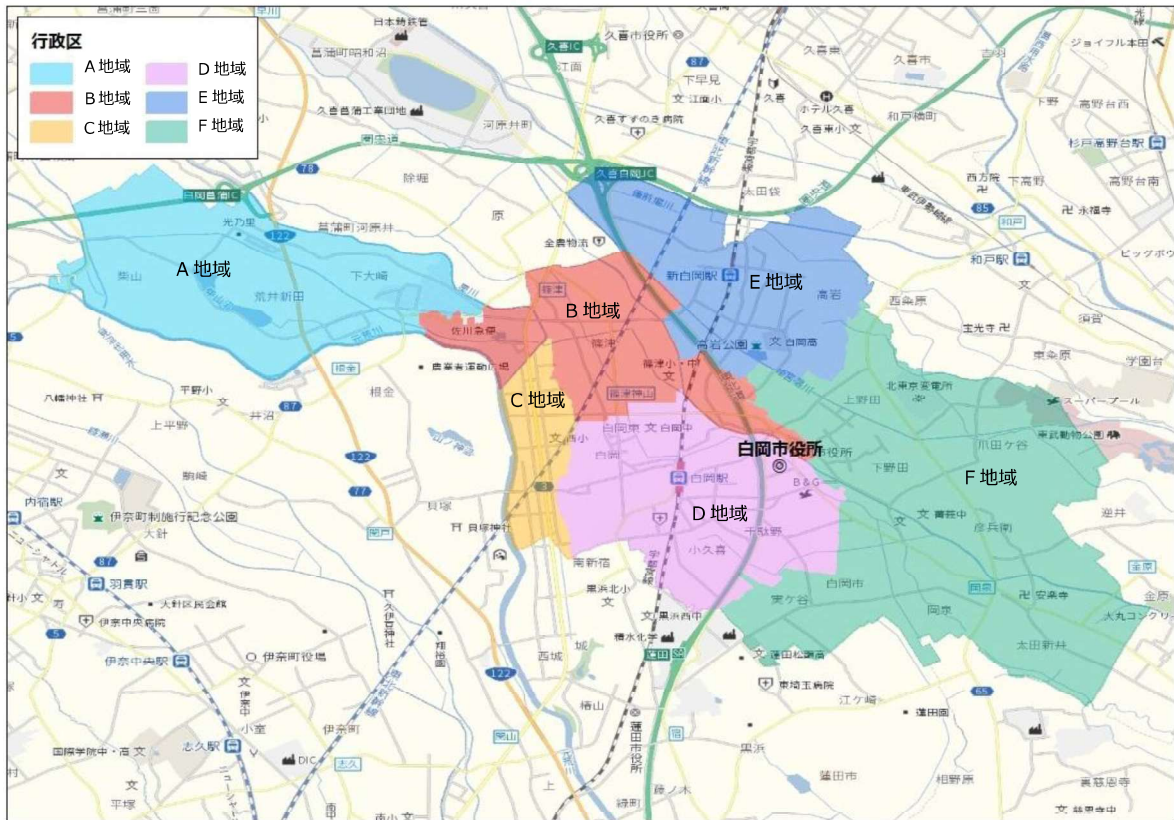
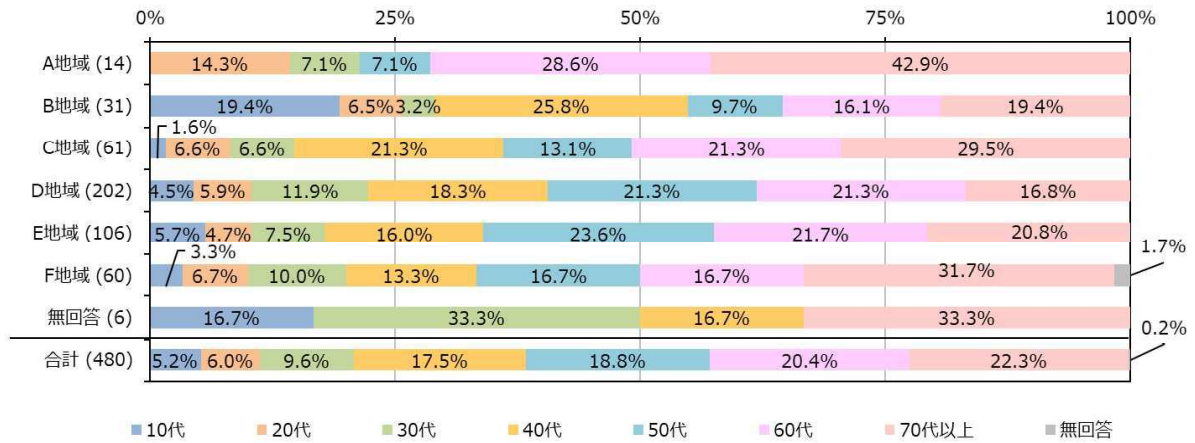


図 2-4-5 各地域の位置と土地利用

■年齢と居住地区（地域別）のクロス集計

居住地区での年齢構成比は下図のようになる。C、D、E、F 地域は人口が多く、全体の年齢構成比とおおむね一致しているが、A 地域は 10 代、40 代の回答が無く、70%以上を 60 代以上が占めており年齢構成が高齢者層に偏っている。一方で B 地域は 10 代、40 代の回答割合が高く、比較的年齢構成が若年層に偏っている。



()内数値：有効回答者数

図 2-4-6 地域別の回答者の年齢構成

(2) 回答者の生活を取り巻く環境について

問1 居住する地域を中心とした環境の快適さ【単独回答】

<単純集計>

「快適な環境である」が22.3%、「どちらかと言えば、快適な環境である」が64.0%と80%以上の市民が身近な環境を快適であると感じている。

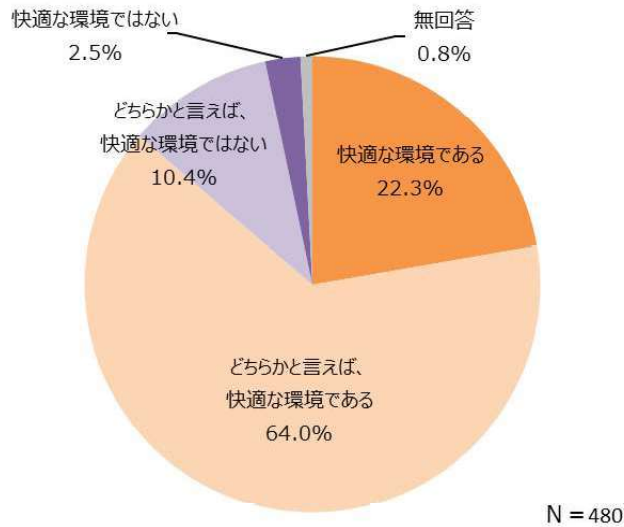
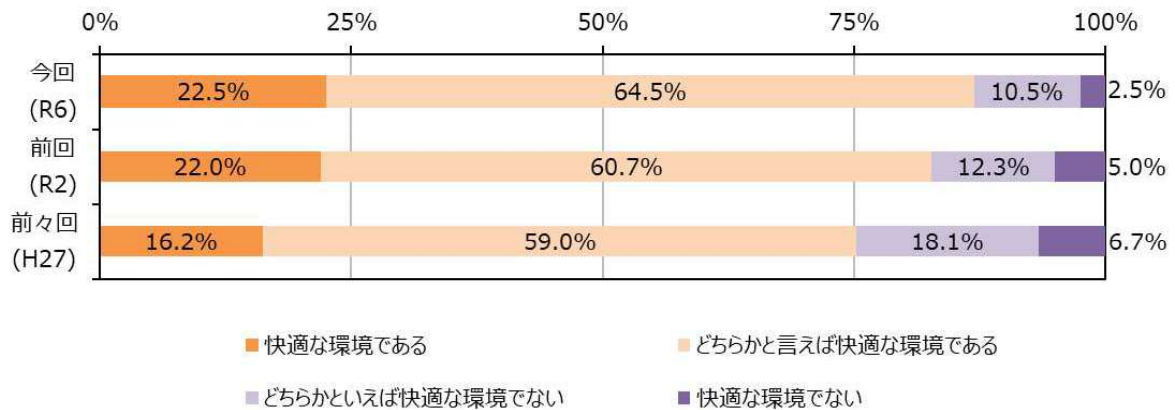


図 2-4-7 問1の単純集計結果

<経年比較>

前回(R2)、前々回(H27：第1次環境基本計画(改訂版)策定時)と比較すると、「快適な環境である」「どちらかと言えば、快適な環境である」が年々増加している。

※下図は過年度との比較のため、無回答抜きの比率を表示(以下同様)



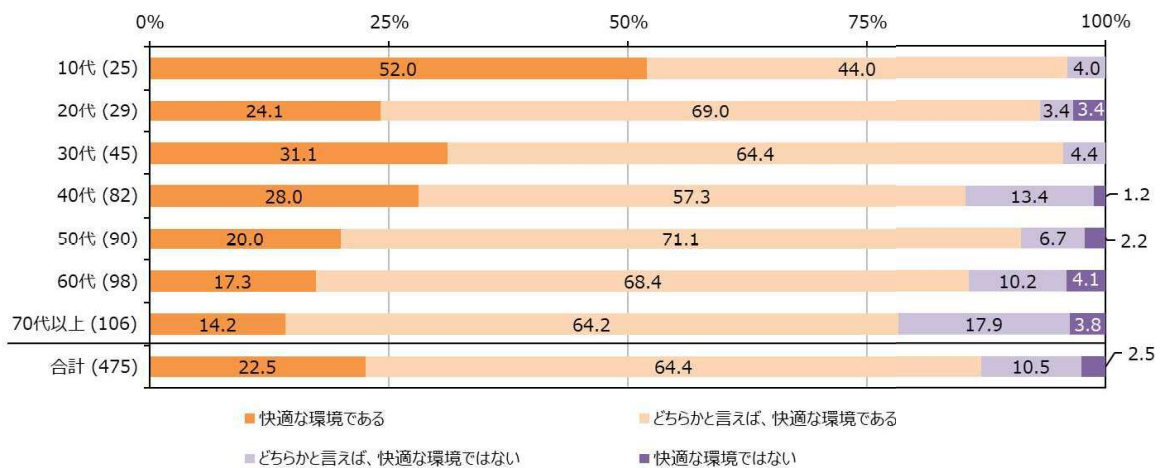
有効回答者数：今回476 前回422 前々回315

図 2-4-8 問1の過年度比較

<クロス集計>

■年代別クロス集計

年代別では、10代の52.0%が「快適な環境である」と回答しており、他の年代と比較して、2倍程度多くなっている。年代が上がるにつれて「快適な環境である」と回答する割合が減少し、「快適な環境ではない」、「どちらかと言えば、快適な環境ではない」が増加する傾向にある。

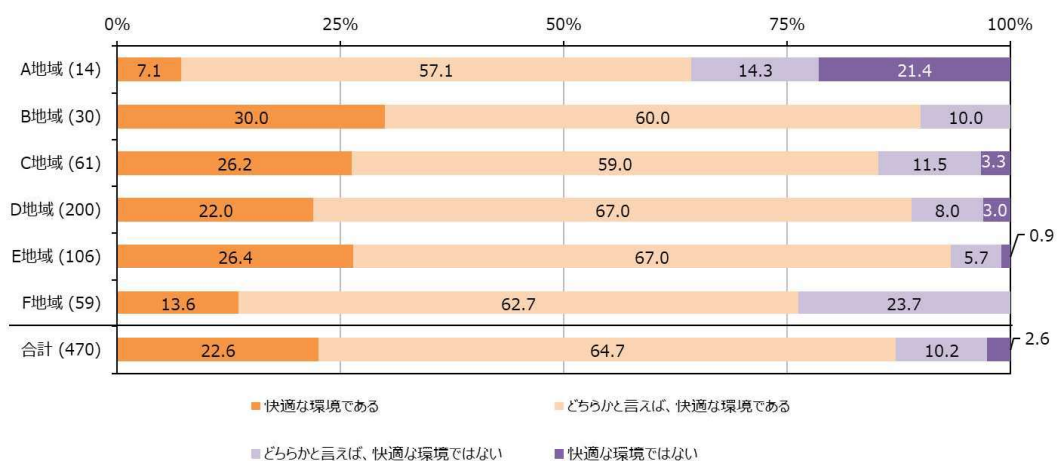


()内数値：有効回答者数

図 2-4-9 問1のクロス集計結果（年代別）

■地域別クロス集計

地域別では、A地域の21.4%が「快適な環境ではない」と回答しており、「快適な環境である」と回答した割合はわずか7.1%にとどまっている。



()内数値：有効回答者数

図 2-4-10 問1のクロス集計結果（地域別）

※年齢、居住地域の無回答数が異なるため、有効回答者数が一致しない場合がある。

※年代や地域によっては、有効回答数が少ない場合がある。

問 2 白岡市において気にかかる環境問題【複数回答】

<単純集計>

「ポイ捨てやごみの不法投棄」が 54.8%と最も多く、次いで「川や水路の汚れ」が 49.0%、「空気の汚れ」が 21.0%、「騒音や振動」が 19.8%となっている。「その他」の回答としては、街路樹や側溝の管理不足などが挙げられた。

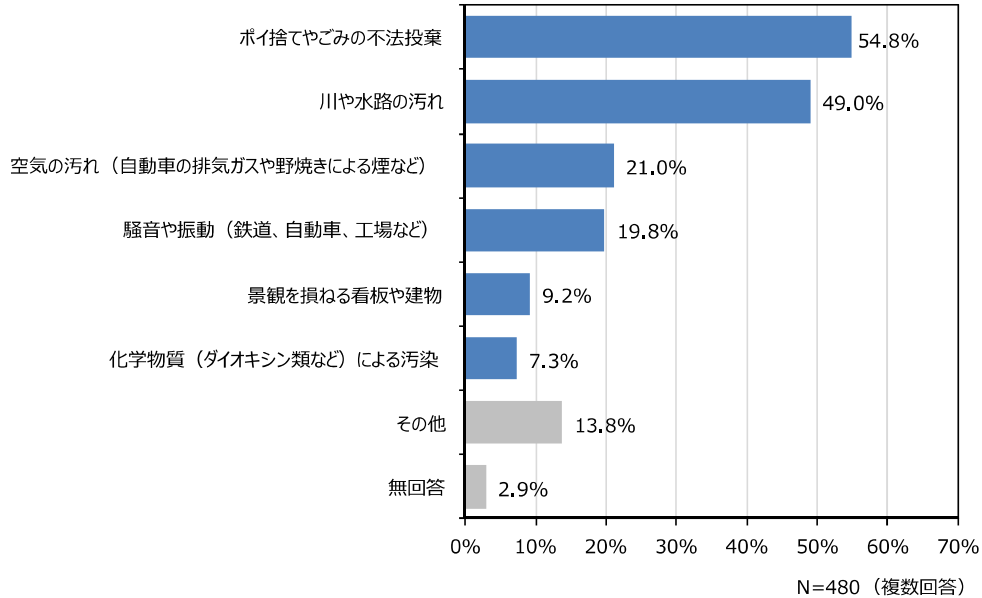
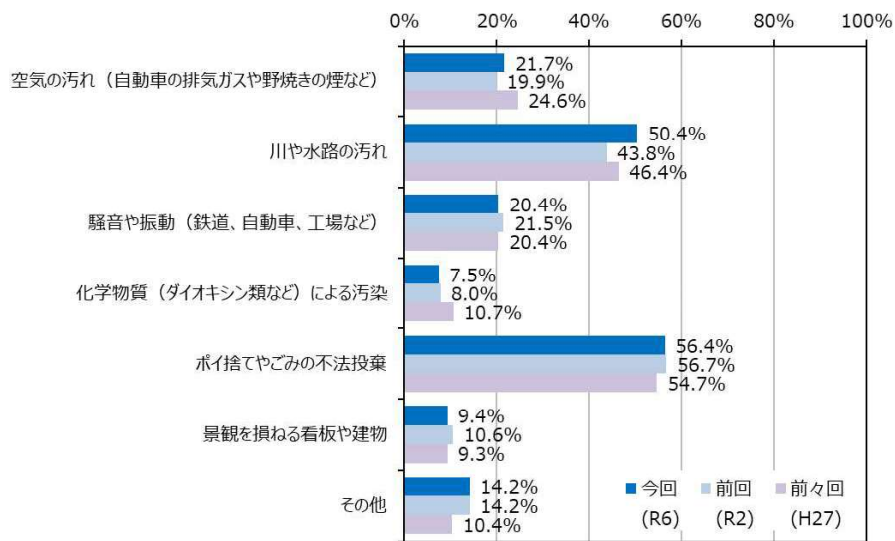


図 2-4-11 問 2 の単純集計結果

<経年比較>

前回、前々回と比較すると、「ポイ捨てやごみの不法投棄」は、わずかに減少しているが、50%以上の市民が気にかけている。「川や水路の汚れ」、「空気の汚れ」は、前回までは減少傾向にあったが、今回は増加した。



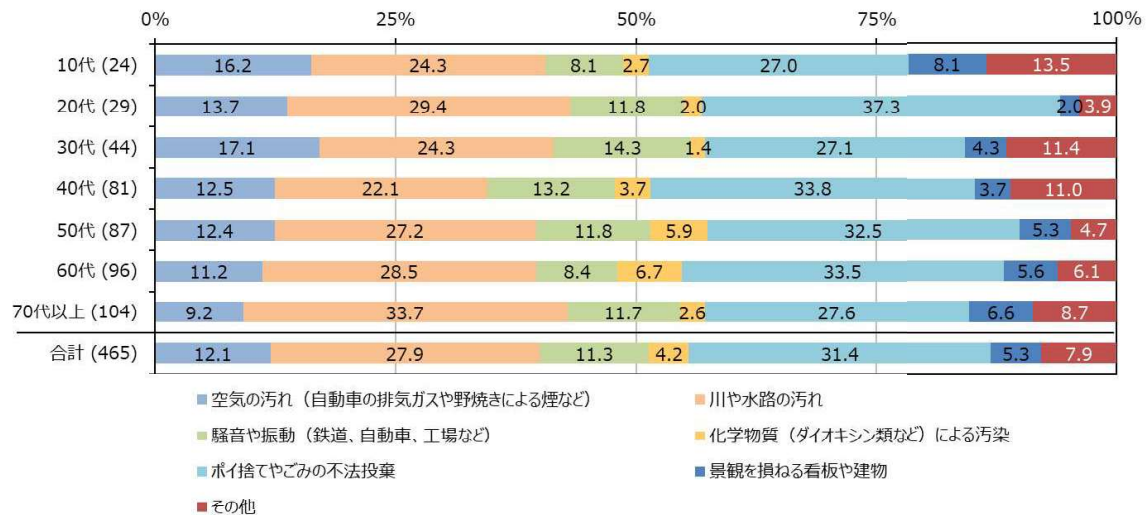
有効回答者数：今回466 前回386 前々回289

図 2-4-12 問 2 の過年度比較

<クロス集計>

■年代別クロス集計

年代別では、20代の「ポイ捨てやごみの不法投棄」と回答した割合が他の年代よりも高い。

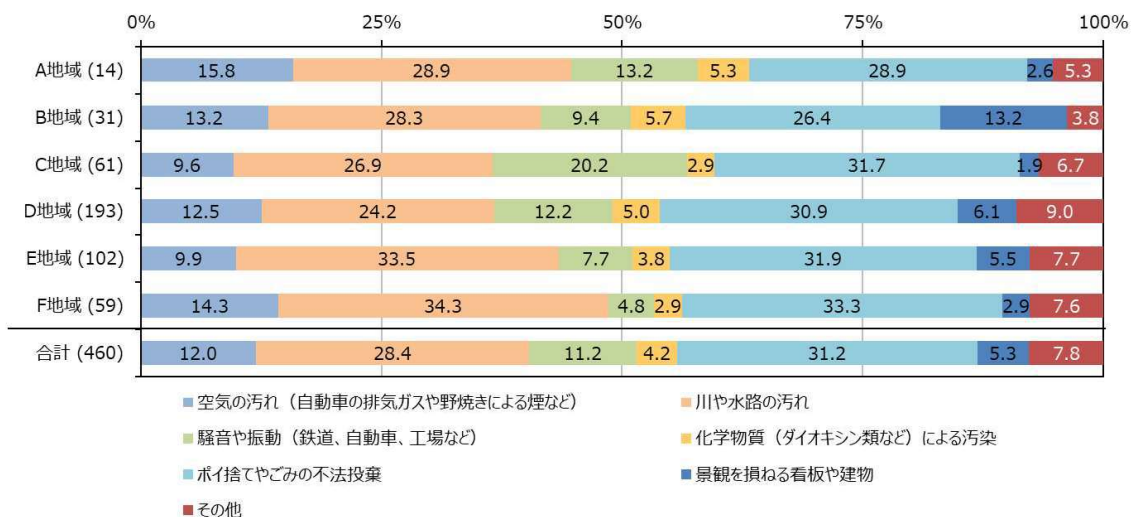


()内数値：有効回答者数 (複数回答)

図 2-4-13 問2のクロス集計結果 (年代別)

■地域別クロス集計

地域別では、田園が広がるB地域において、「景観を損ねる看板や建物」と回答した割合が高く、住宅が密集しているC地域では「騒音や振動」と回答した割合が高い。地域内に立地する新幹線や幹線道路、工業団地など、地域特性に合わせた対策が課題となる。



()内数値：有効回答者数 (複数回答)

図 2-4-14 問2のクロス集計結果 (地域別)

問3 白岡市の自然を守るために進めるべき取組【複数回答（2つまで）】

＜単純集計＞

「河川、水路や地下水など水環境の汚染防止の推進」が65.2%と特に関心が高い。「その他」としては、街路樹や耕作放棄地、雑草などの管理についての意見があった。

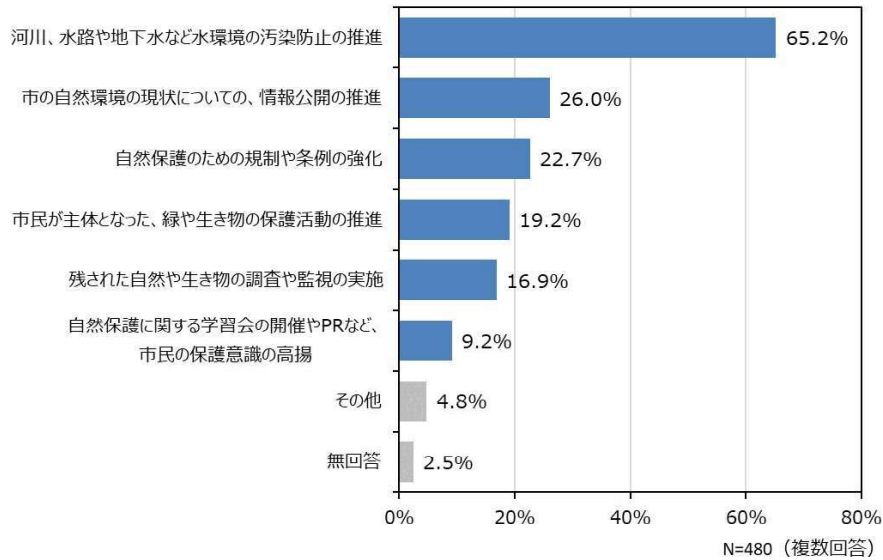
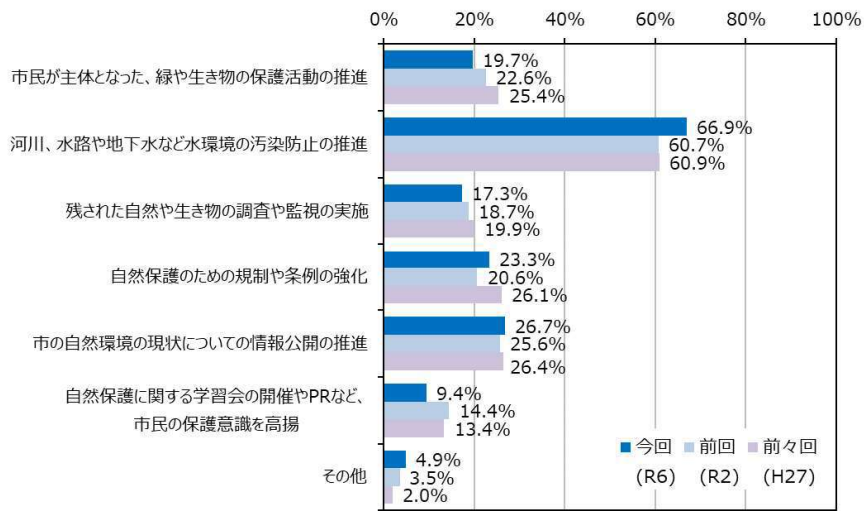


図 2-4-15 問3の単純集計結果

＜経年比較＞

問2と連動し、「河川、水路や地下水など水環境の汚染防止の推進」が増加傾向にある。他の項目は全体的に減少傾向にあるが、特に「自然保護に関する学習会の開催やPRなど、市民の保護意識を高揚」することに関しては大幅に減少している。



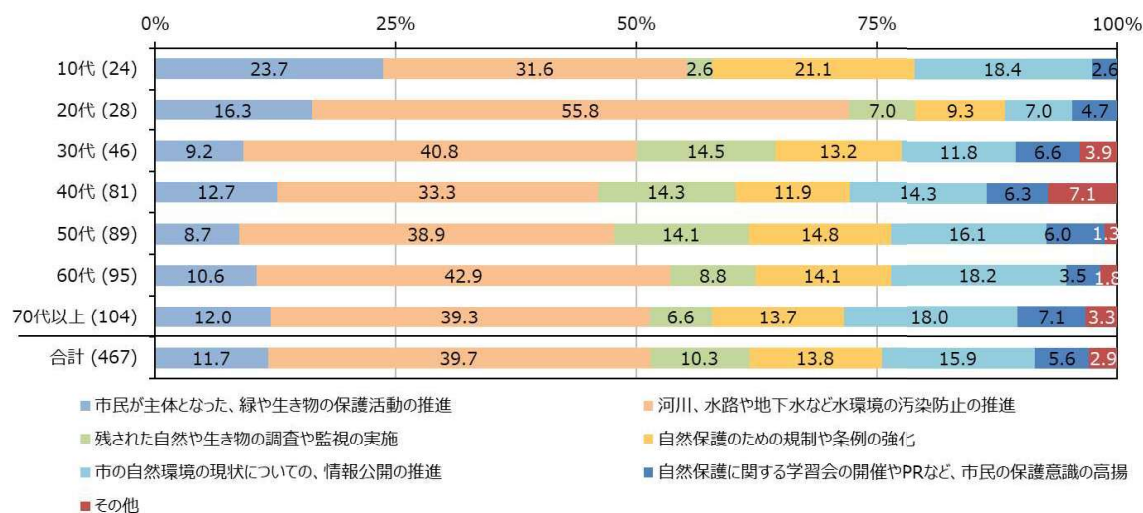
有効回答者数：今回468 前回402 前々回307

図 2-4-16 問3の過年度比較

<クロス集計>

■年代別クロス集計

年代別では、20代で「河川、水路や地下水など水環境の汚染防止の推進」と回答した割合が高く、水環境に対する関心が高い。「残された自然や生き物の調査や監視の実施」は10代・20代で回答した割合が低く、「市の自然環境の現状についての情報公開の推進」は、20・30代で他の年代よりも回答した割合が低い。

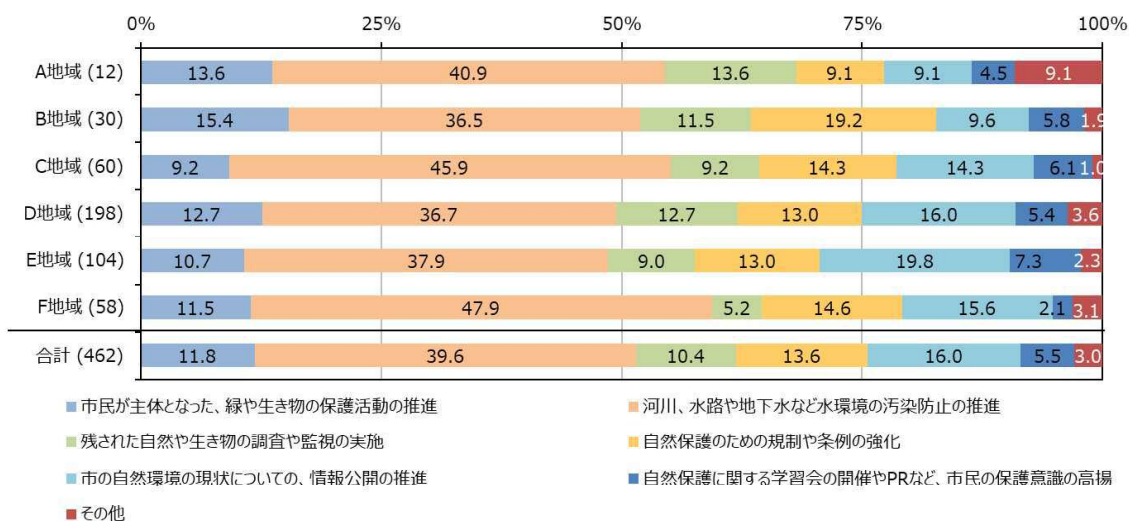


()内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-17 問3のクロス集計結果（年代別）

■地域別クロス集計

地域別では、どの地域も「河川、水路や地下水など水環境の汚染防止の推進」と回答した割合が高く、隼人堀川、姫宮落川周辺に田畑と住宅地が入り組んでいるF地域においてはその傾向が顕著に見られた。



()内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-18 問3のクロス集計結果（地域別）

問 4 リサイクルや省エネルギーについての関心【単独回答】

<単純集計>

「関心があり、日常生活で実践している」が 56.7%、「関心はないが、日常生活で実践している」が 24.8%と 80%以上の市民がリサイクルの取組を実施している。

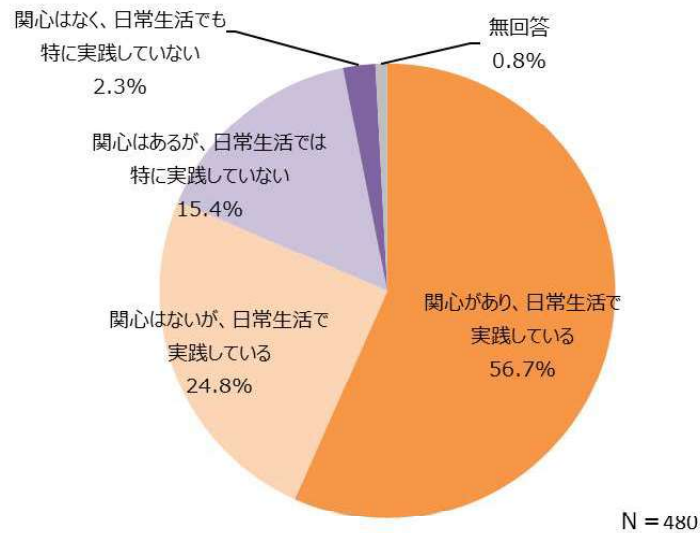
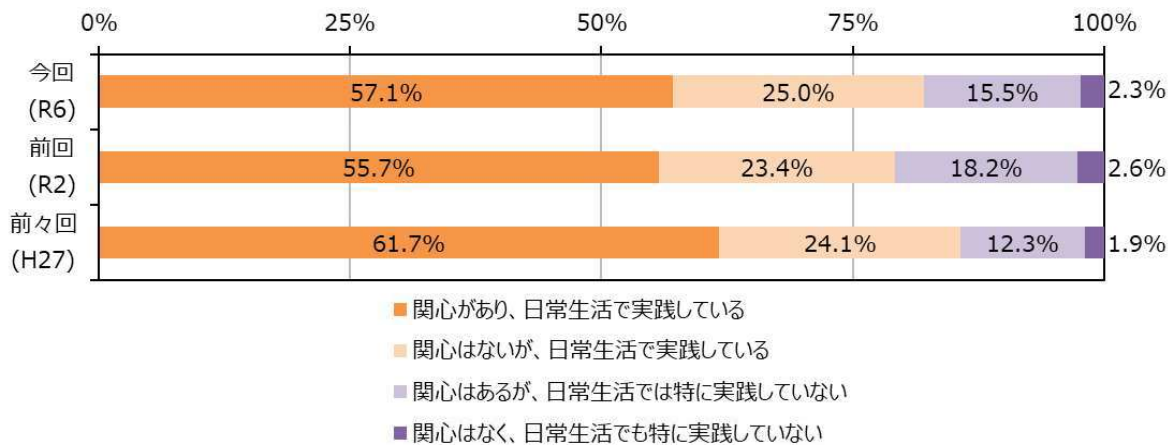


図 2-4-19 問 4 の単純集計結果

<経年比較>

前回までは、「関心があり、日常生活で実践している」「関心はないが、日常生活で実践している」と回答した市民の割合は減少傾向にあったが、今回は前々回と近い水準まで回復した。



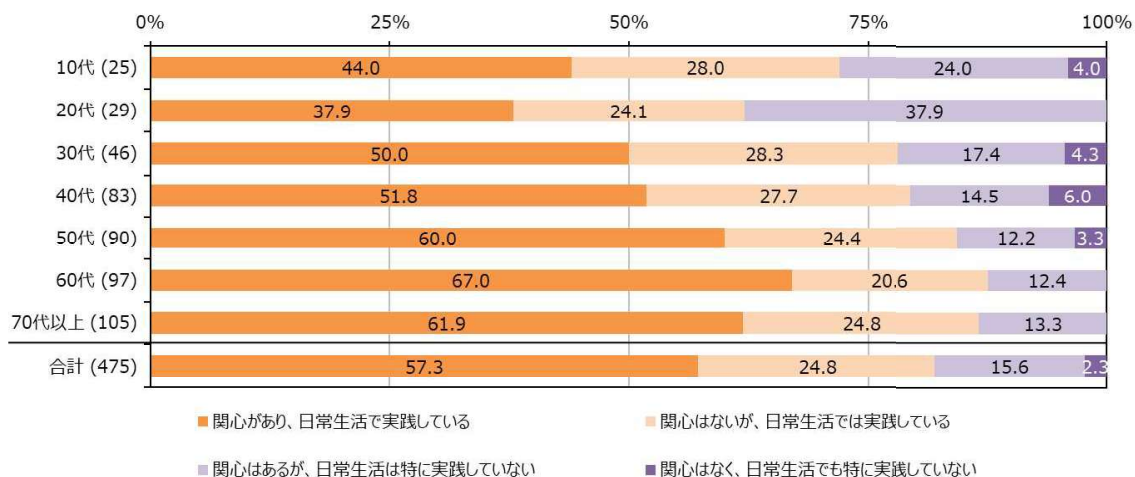
有効回答者数：今回476 前回418 前々回316

図 2-4-20 問 4 の過年度比較

<クロス集計>

■年代別クロス集計

年代別では、若年層ほど「関心があり、日常生活で実践している」と回答する割合が低く、「関心はあるが、日常生活は特に実践していない」と回答する割合が高くなっている。関心はないと回答した割合は、世代間でほとんど変わらず30%程度となっている。

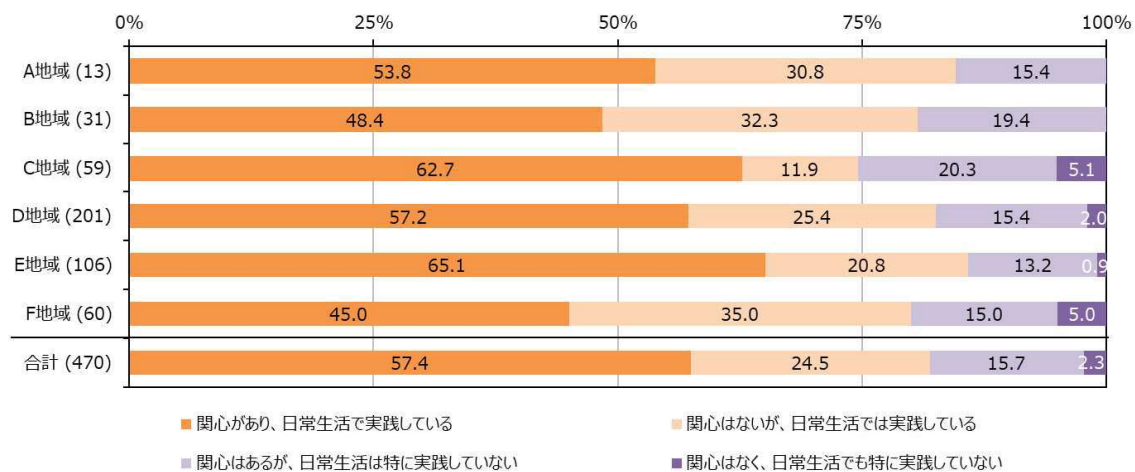


()内数値：有効回答者数

図 2-4-21 問4のクロス集計結果（年代別）

■地域別クロス集計

地域別では、C地域において、「関心があり、日常生活で実践している」と「関心はないが、日常生活では実践している」を合算した割合が75%を下回っており、「関心はあるが、日常生活は特に実践していない」と回答した割合が他地域と比べ高く、日常生活でできる取組の啓発が課題となる。



()内数値：有効回答者数

図 2-4-22 問4のクロス集計結果（地域別）

問5 リサイクルや省エネルギーに関して行っている取組【複数回答】

※問4で「関心があり、日常生活で実践している」、「関心はないが、日常生活で実践している」と回答した場合
 <単純集計>

「買い物袋の持参や過剰包装を断る」が83.9%と最も多く、次いで「油や食べ残しを排水溝へ流さない」が65.5%、「節電」が62.4%となった。

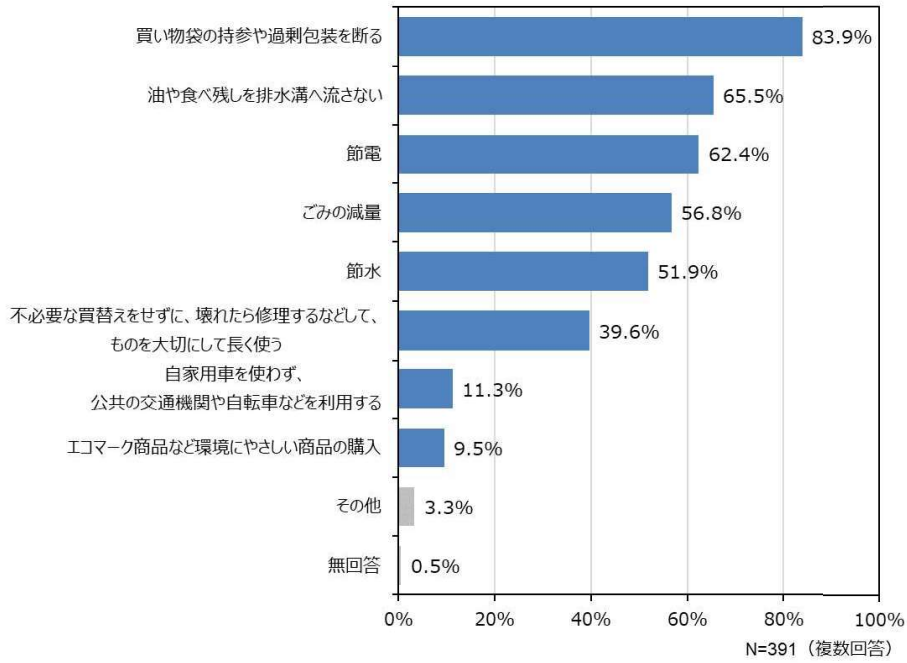


図 2-4-23 問5の単純集計結果

<経年比較>

全体的に減少傾向にあるが、令和2年7月の買い物袋有料化の影響もあり、「買い物袋の持参や過剰包装を断る」が84.3%と多くの市民が取り組んでいる。

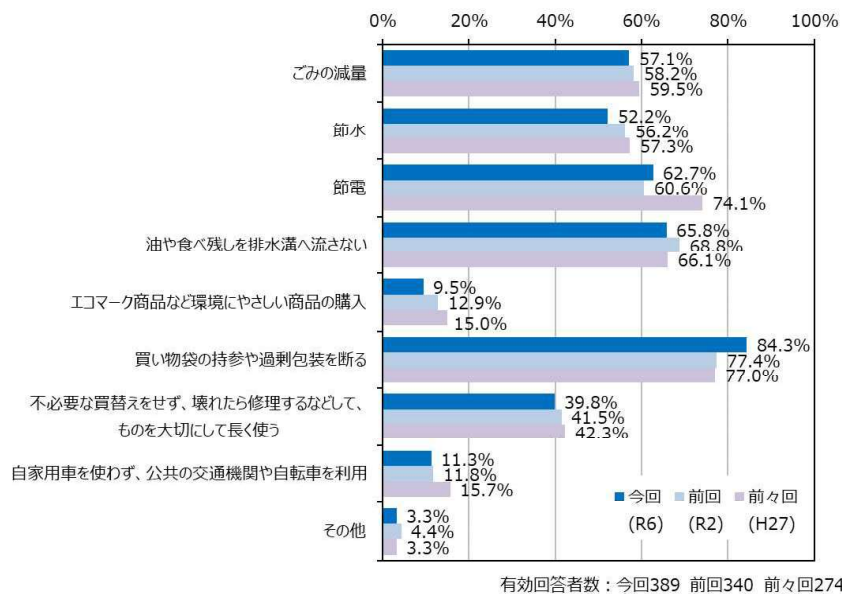
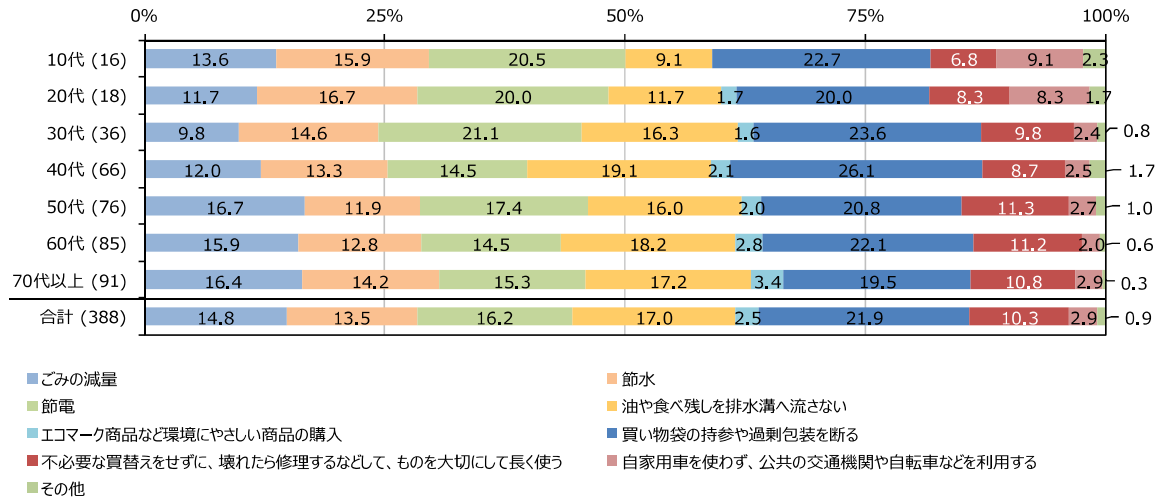


図 2-4-24 問5の過年度比較

<クロス集計>

■年代別クロス集計

年代別では、自動車の保有割合が高くなる30代以上において、「自家用車を使わず、公共の交通機関や自転車などを利用する」と回答した割合が低く、スマートムーブ等の普及が課題となる。

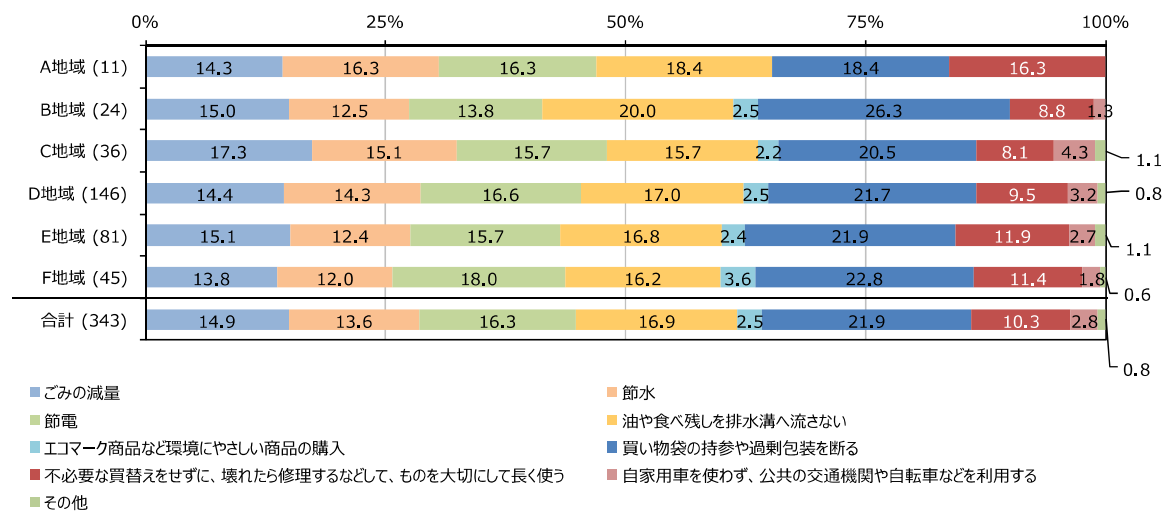


()内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-25 問5のクロス集計結果（年代別）

■地域別クロス集計

地域別では、白岡・新白岡駅から距離が遠く、白岡・新白岡駅への路線バスが通っていない、A・B・F地域において、「自家用車を使わず、公共の交通機関や自転車などを利用する」と回答した割合が低い傾向が見られた。



()内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-26 問5のクロス集計結果（地域別）

問6 リサイクルや省エネルギーに関する取組を行わない理由【単独回答】

※問4で「関心はあるが、日常生活では特に実践していない」、「関心はなく、日常生活でも特に実践していない」と回答した場合

<単純集計>

「どのような取組をすれば良いのかわからない」が52.9%で最多となっている。

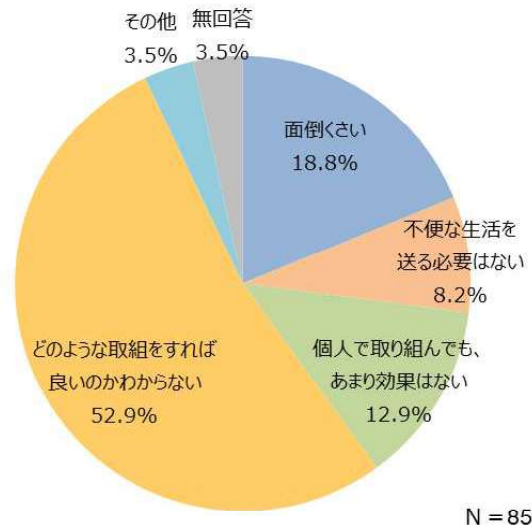
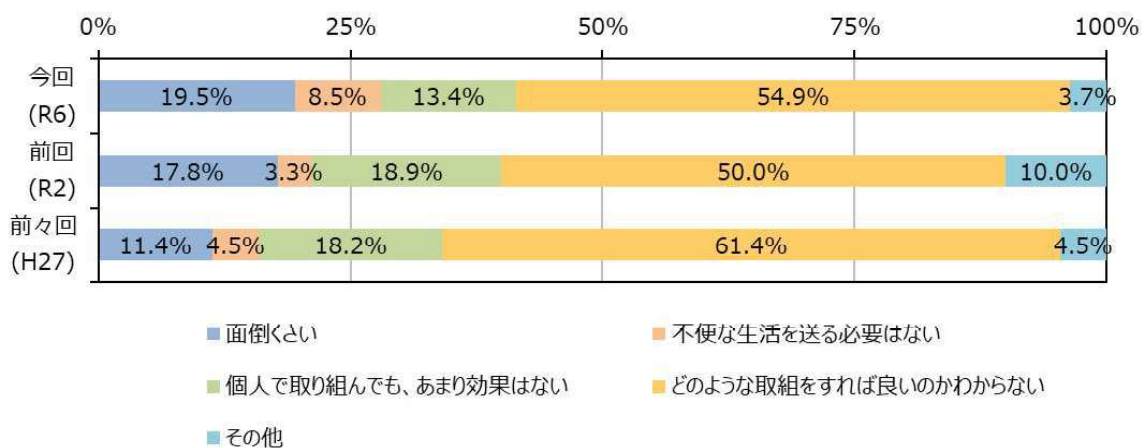


図 2-4-27 問6の単純集計結果

<経年比較>

「どのような取組をすれば良いのかわからない」が3回のアンケートを通じて50%以上を占めている。加えて、「面倒くさい」、「不便な生活を送る必要はない」という否定的な意見が増加していることから、リサイクル・省エネルギーで得られるメリットなどの情報提供や大きな負担とならないような取組の検討が重要である。



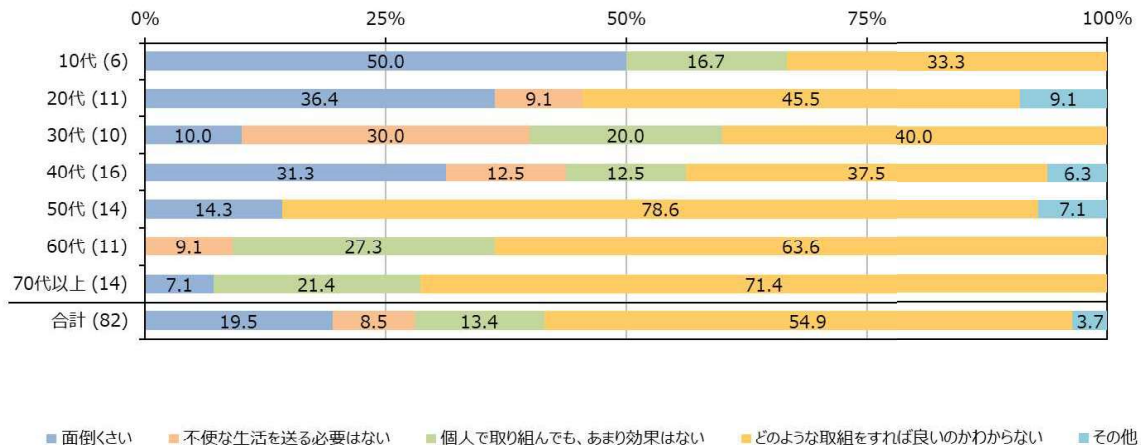
有効回答者数：今回82 前回90 前々回44

図 2-4-28 問6の過年度比較

<クロス集計>

■年代別クロス集計

年代別では、若年層ほど「面倒くさい」と回答した割合が高く、高齢者層ほど「どのような取組をすれば良いのかわからない」と回答した割合が高くなる傾向が見られた。

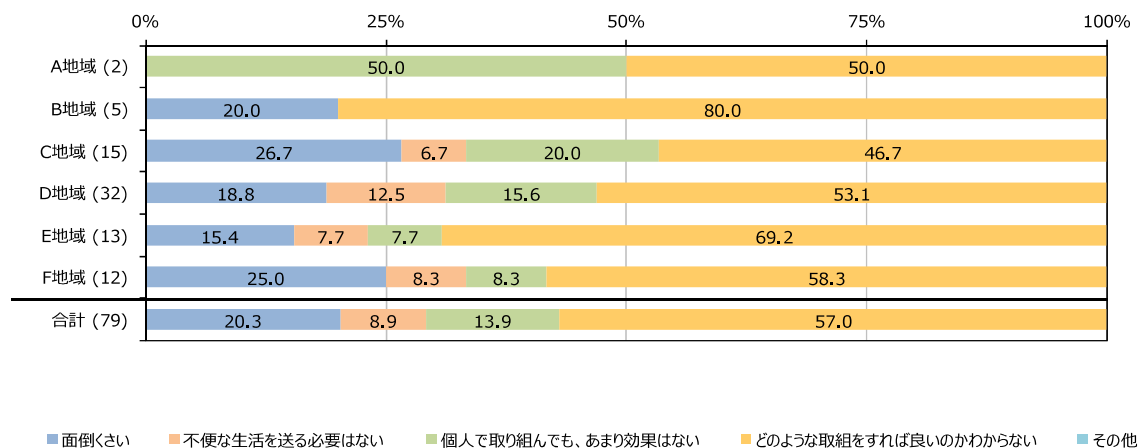


()内数値：有効回答者数

図 2-4-29 問 6 のクロス集計結果（年代別）

■地域別クロス集計

地域別では、どの地域も「どのような取組をすれば良いのかわからない」と回答した割合が50%以上を占めている。特にB・E地域では、その回答が顕著に見られた。



()内数値：有効回答者数

図 2-4-30 問 6 のクロス集計結果（地域別）

問7 リサイクルや省エネルギーを進める上で行うべき取組【複数回答（2つまで）】

＜単純集計＞

「ごみの分別収集を強化し、資源の再利用を図る」が31.5%と最も多く、次いで「一人ひとりが節水、節電などに積極的に取り組む」が29.6%、「企業や商店などが再利用できる廃品の回収を積極的に進める」が22.7%となった。

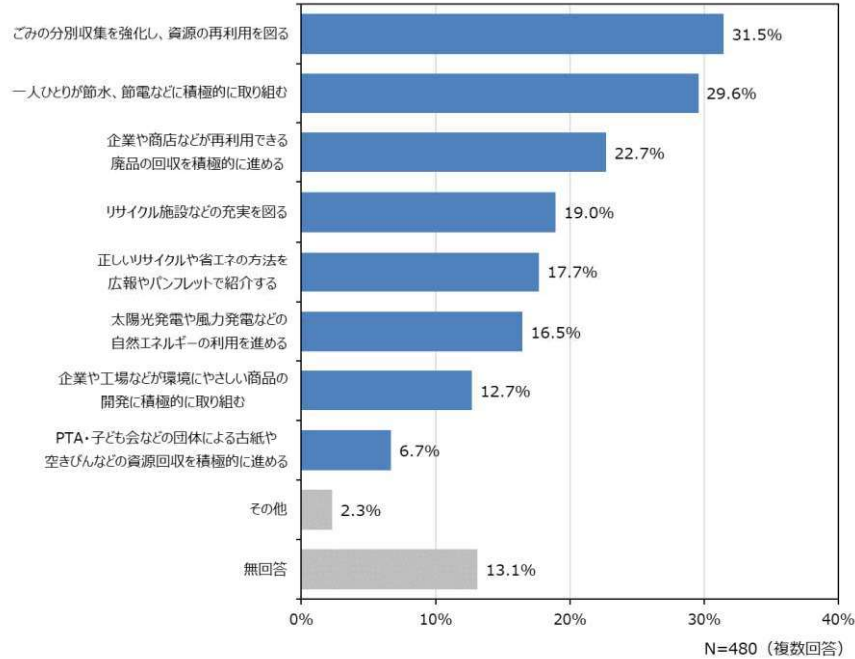


図 2-4-31 問7の単純集計結果

＜経年比較＞

増減を繰り返している項目が多いが、「一人ひとりが節水、節電などに積極的に取り組む」と、「正しいリサイクルや省エネの方法を広報やパンフレットで紹介する」は減少傾向にある。

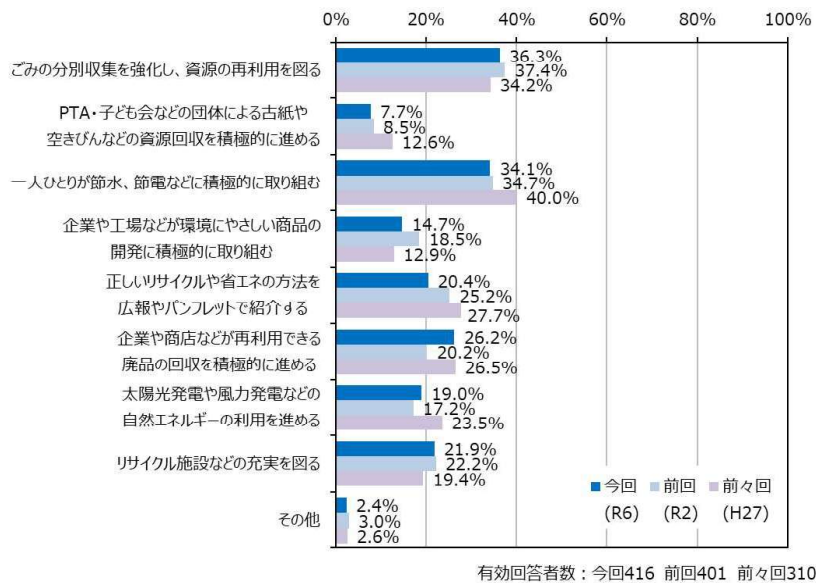
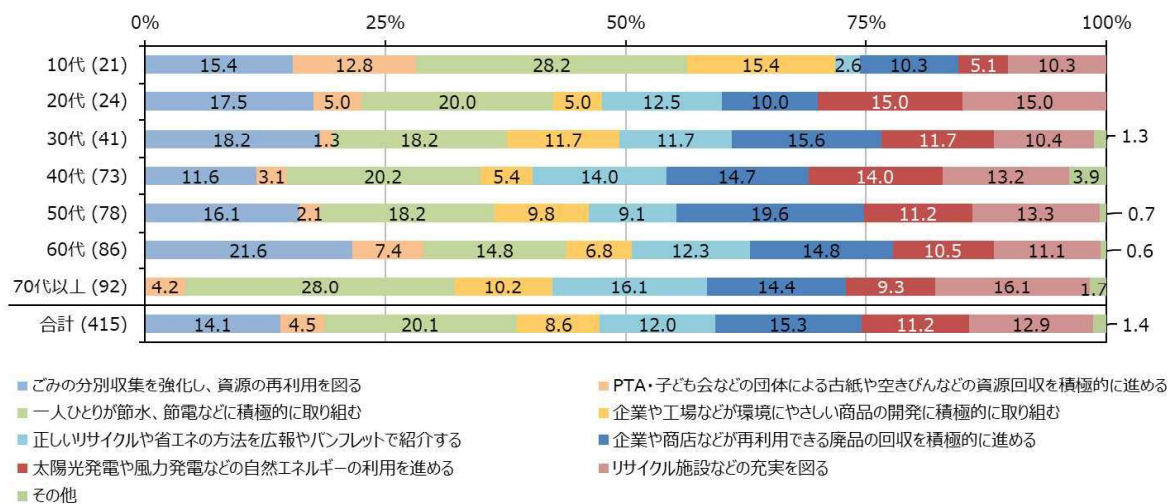


図 2-4-32 問7の過年度比較

<クロス集計>

■年代別クロス集計

年代別では、70代以上で「ごみの分別収集を強化し、資源の再利用を図る」と回答した市民は見られなかった。「PTA・子供会などの団体による古紙や空きびんなどの資源回収を積極的に進める」は、PTA や子供会が身近な 10 代で回答した割合が高い。一方で親世代に当たる 30～50 代の回答割合は低い。

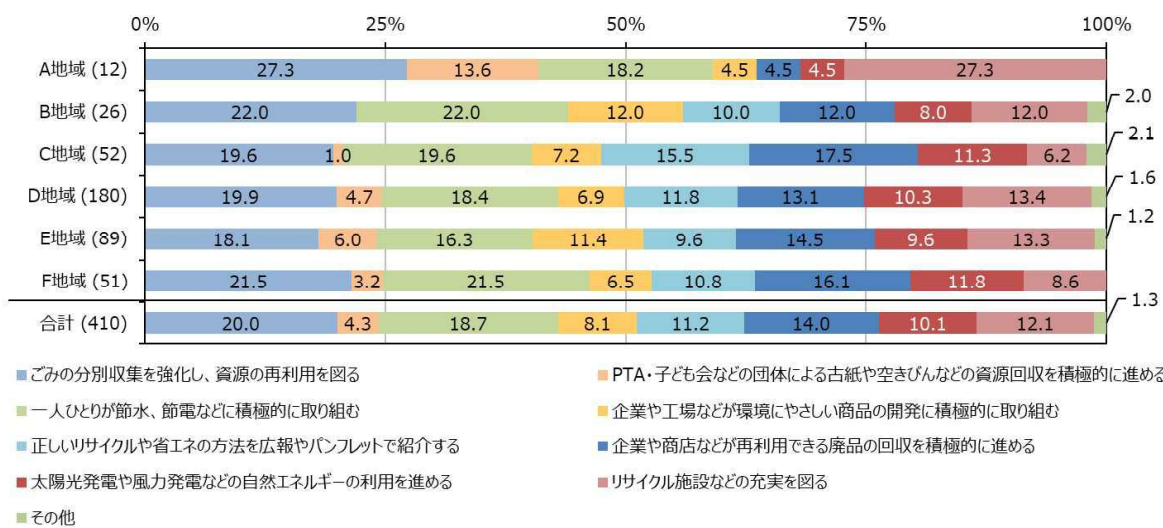


()内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-33 問 7 のクロス集計結果（年代別）

■地域別クロス集計

地域別では、A 地域において「ごみの分別収集を強化し、資源の再利用を図る」、「リサイクル施設などの充実を図る」と回答した割合が高く、リサイクルのニーズが高い。



()内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-34 問 7 のクロス集計結果（地域別）

問 8 SDGs の認知度

<単純集計>

「言葉も内容や意味も知っている」が 65.2%、「言葉だけは知っている（聞いたことがある）」が 25.6%と、90%以上の市民が SDGs を認知している。

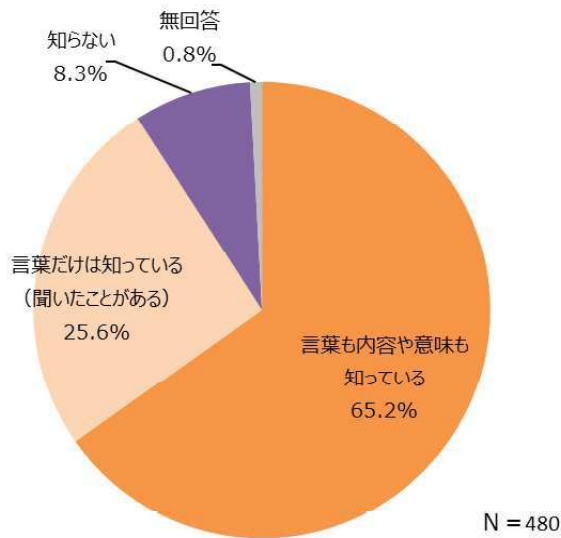
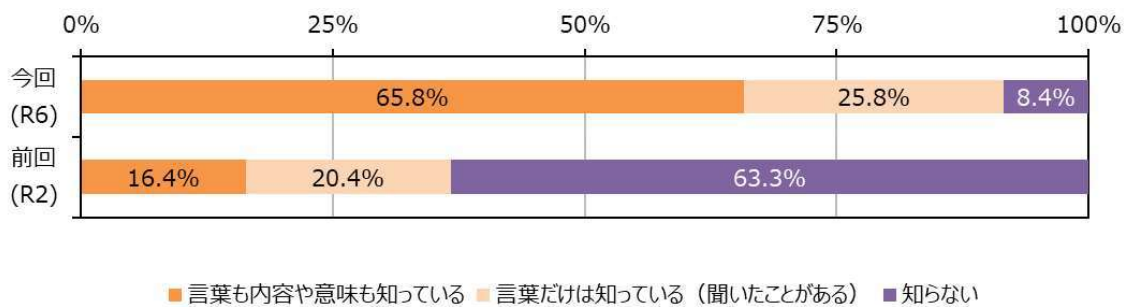


図 2-4-35 問 8 の単純集計結果

<経年比較>

「言葉も内容や意味も知っている」が 65.8%と前回の約 4 倍に増加した。メディアなどでも取り上げられていることから、認知度が大幅に上昇したと考えられる。

※前々回は未実施



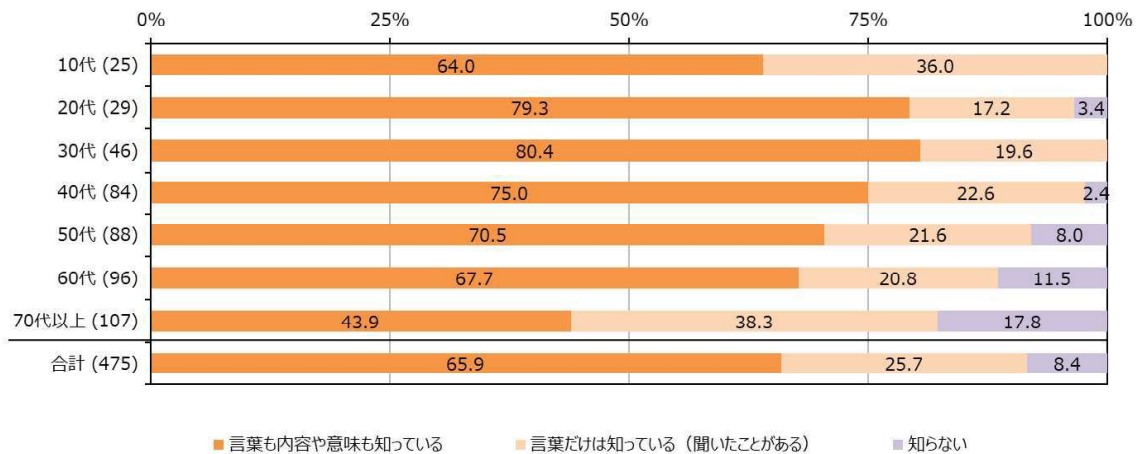
有効回答者数：今回476 前回422

図 2-4-36 問 8 の過年度比較

<クロス集計>

■年代別クロス集計

年代別では、20～30代でSDGsについて「言葉も内容も知っている」と回答した割合が高く、年代が上がるにつれて回答した割合が下がる。10代も「言葉も内容も知っている」と回答した割合が低く、学校での環境教育を行うことで、認知度を上げることが重要である。

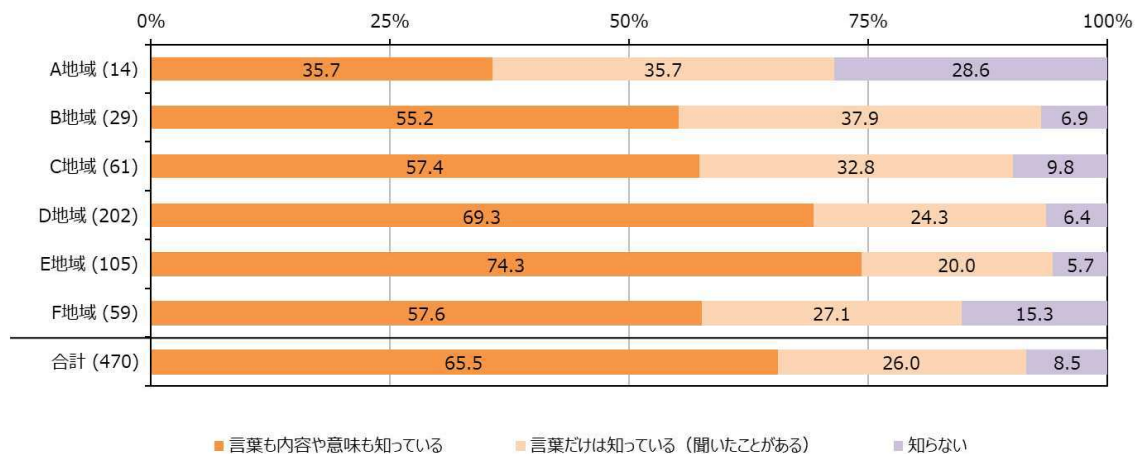


()内数値：有効回答者数

図 2-4-37 問 8 のクロス集計結果 (年代別)

■地域別クロス集計

地域別では、年代別同様に高齢者の多い A 地域での認知度が低い。



()内数値：有効回答者数

図 2-4-38 問 8 のクロス集計結果 (地域別)

(3) 環境づくりへの参加や役割について

問9 参加してみたい自主的な環境づくり活動【複数回答】

<単純集計>

「ごみゼロ・クリーン活動等の地域の清掃・美化活動」が35.0%と最も多く、次いで「植樹やガーデニング等の地域の緑化活動」が25.2%、「地域の防災活動」が17.7%と、地域に根付いた活動の得票率が高い。一方で、「文化財保護活動や学習会」、「脱炭素社会構築のためのキャンペーンへの参加」といった活動は得票率が低い。また、「参加したいとは思わない」も25.6%あり、環境づくり活動への参加を促す必要がある。「その他」ではSDGsに関する取組の紹介やビオトープの保全などの意見があった。

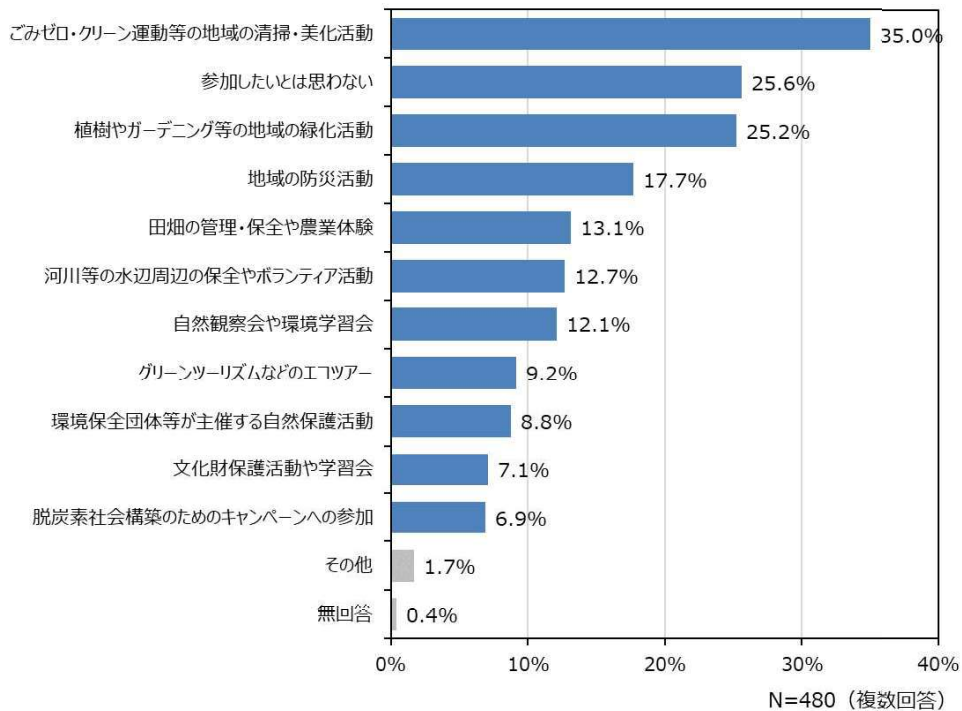
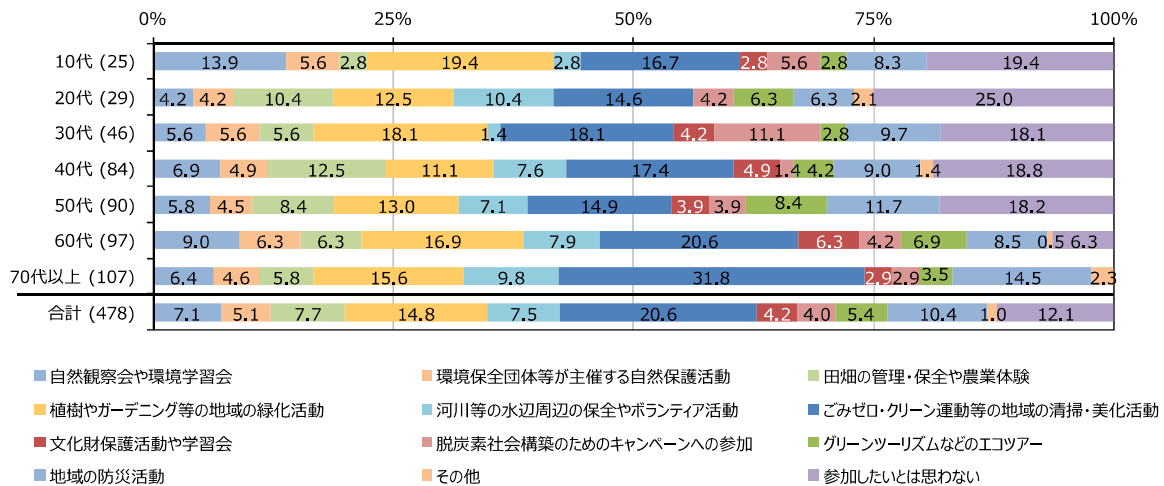


図 2-4-39 問9の単純集計結果

<クロス集計>

■年代別クロス集計

年代別では、60代以上で「ごみゼロ・クリーン活動等の地域の清掃・美化活動」、「地域の防災活動」の回答率が高い。「植樹やガーデニング等の地域の緑化活動」については、世代間の差異が少ない。また、自然に触れる機会の多い10代では、「自然観察会や環境学習会」と回答した割合が高い。生活と時間にゆとりが生まれる60代以降では、「参加したいとは思わない」と回答した市民がほとんどいない。

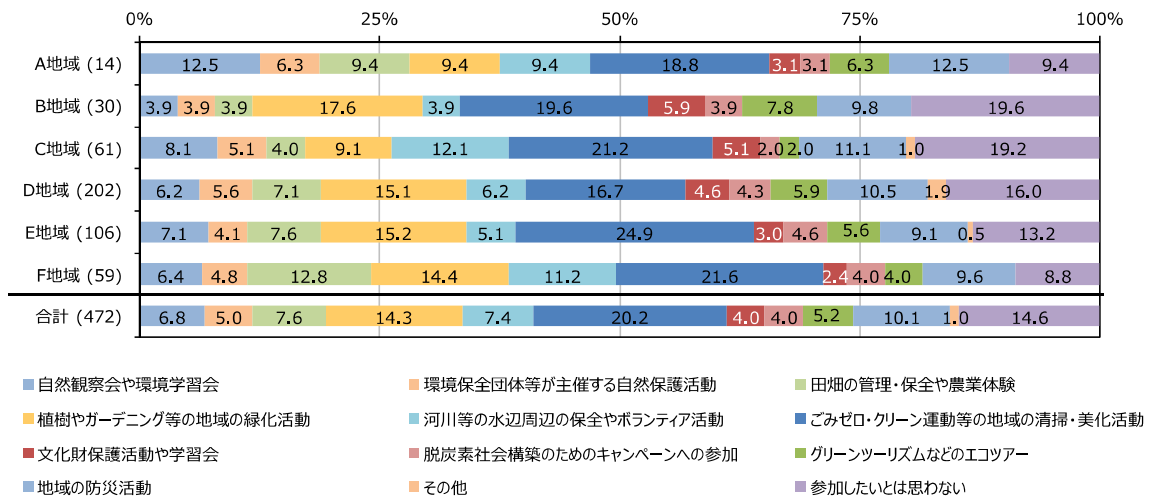


()内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-40 問9のクロス集計結果（年代別）

■地域別クロス集計

地域別では、どの地域も「地域の清掃・美化活動」の回答率が高い。なお、B・C・D地域は、市平均よりも「参加したくない」の回答率が高い。



()内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-41 問9のクロス集計結果（地域別）

問 10 市民の自主的な環境づくりに参加したいと思わない理由【単独回答】

※問 9 で「参加したいとは思わない」と回答した場合

<単純集計>

「多忙であり時間が取れない」が 39.8%と最も多く、次いで「体力的に無理」が 22.8%となっている。

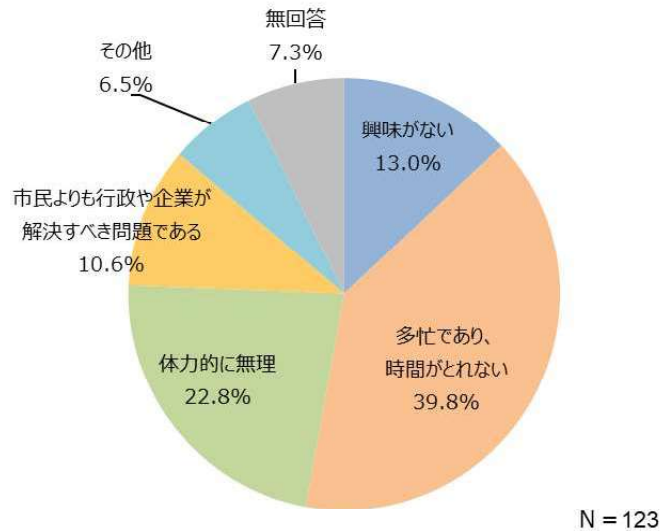
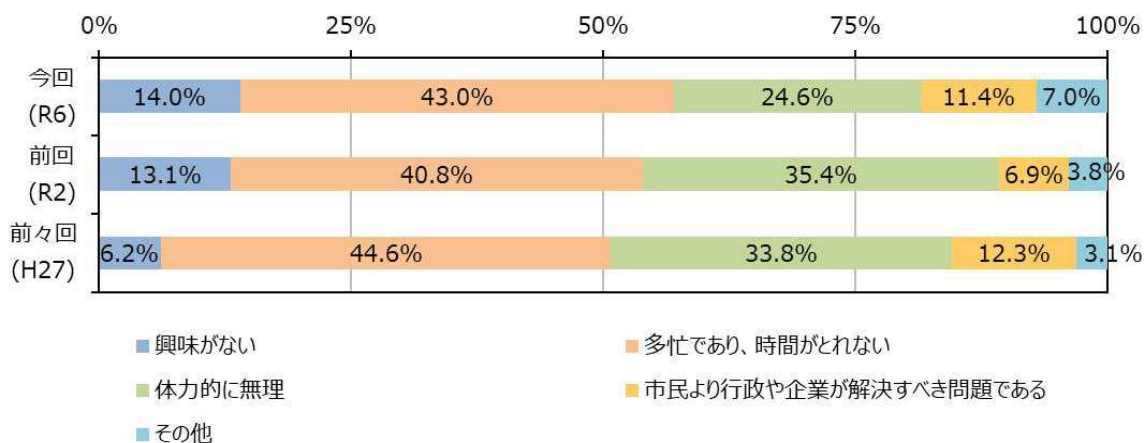


図 2-4-42 問 10 の単純集計結果

<経年比較>

「多忙であり時間が取れない」がどの年度においても最も高くなっている。「興味がない」の割合が増加傾向にあり、市民に求める活動の周知や内容を検討していく必要がある。



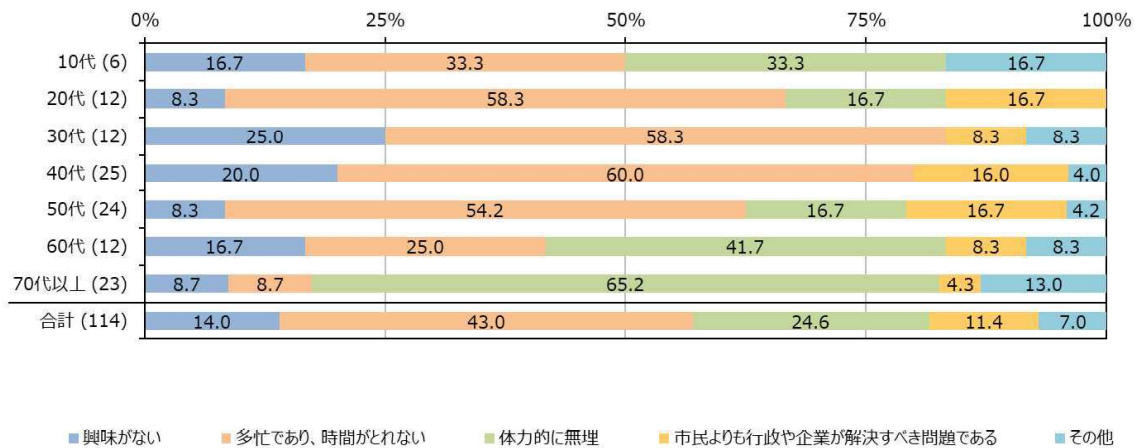
有効回答者数：今回114 前回130 前々回65

図 2-4-43 問 10 の過年度比較

<クロス集計>

■年代別クロス集計

年代別では、20～50代で「多忙であり、時間が取れない」と回答した割合が50%以上を占めている。また、30・40代では「興味がない」と回答した割合が他の世代よりも高い。

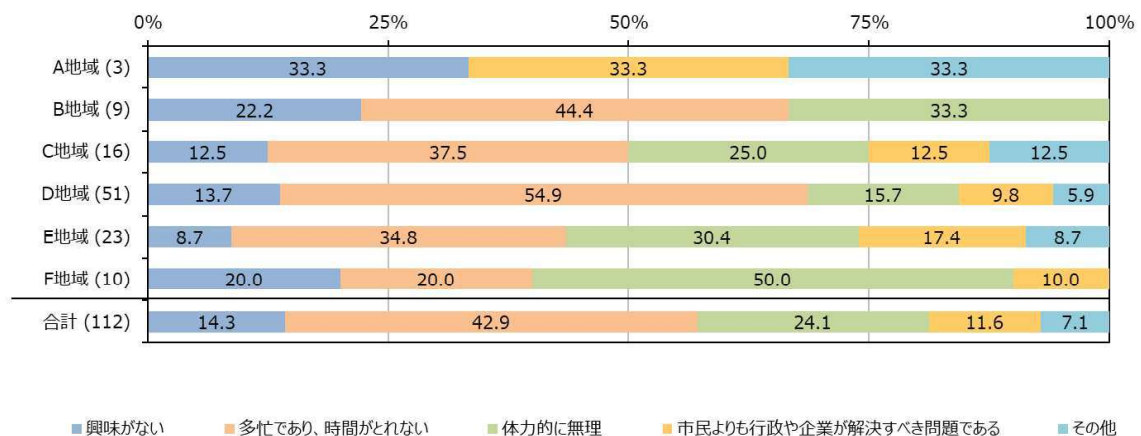


()内数値：有効回答者数

図 2-4-44 問 10 のクロス集計結果（年代別）

■地域別クロス集計

地域別では、D地域において、「多忙であり、時間が取れない」と回答した割合が高い。



()内数値：有効回答者数

図 2-4-45 問 10 のクロス集計結果（地域別）

問 11 市民が白岡市の環境づくりに参加するために、市が重点的に取り組むべきこと【複数回答（2 つまで）】

＜単純集計＞

「市の環境の状況や環境問題に関する情報公開」が 45.2%と最も多く、次いで「各行政区や自治会等によるごみゼロ・クリーン運動などの清掃活動・美化活動の促進」が 36.3%、「自主的に環境問題に取り組む企業や組織・サークル等への積極的支援」が 27.3%と続く。

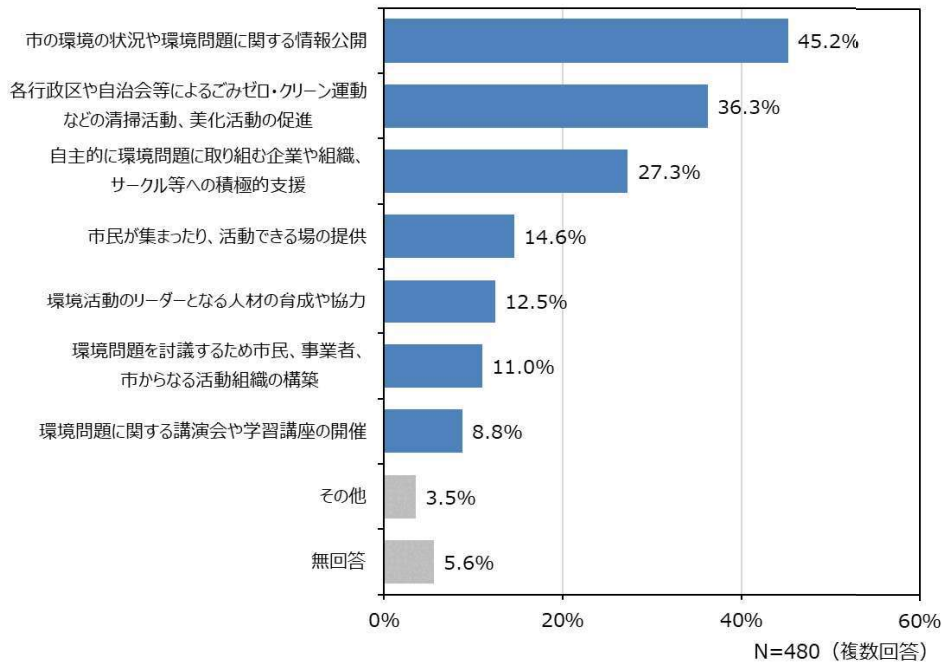


図 2-4-46 問 11 の単純集計結果

＜経年比較＞

「市の環境の状況や環境問題に関する情報公開」では、前々回よりも増加し、最も求められる取組となった。増減を繰り返している項目が多いが、「市民が集まったり、活動できる場の提供」は一貫して減少傾向にある。

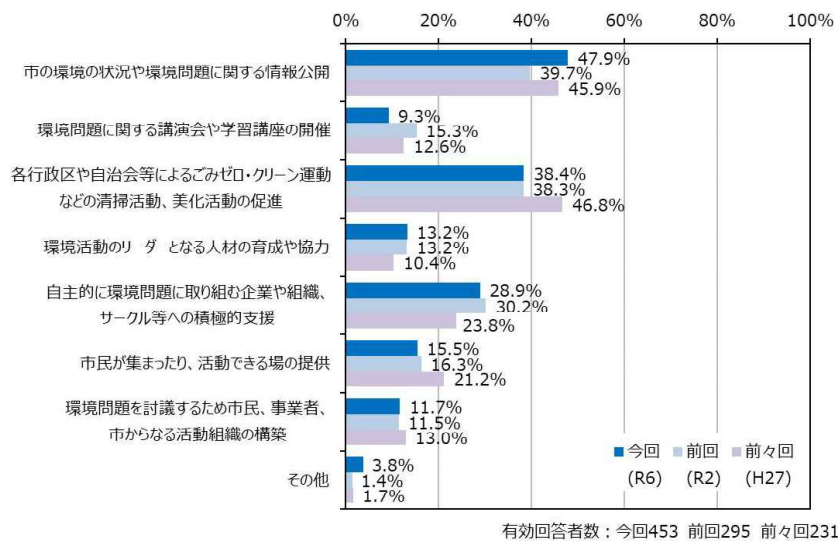
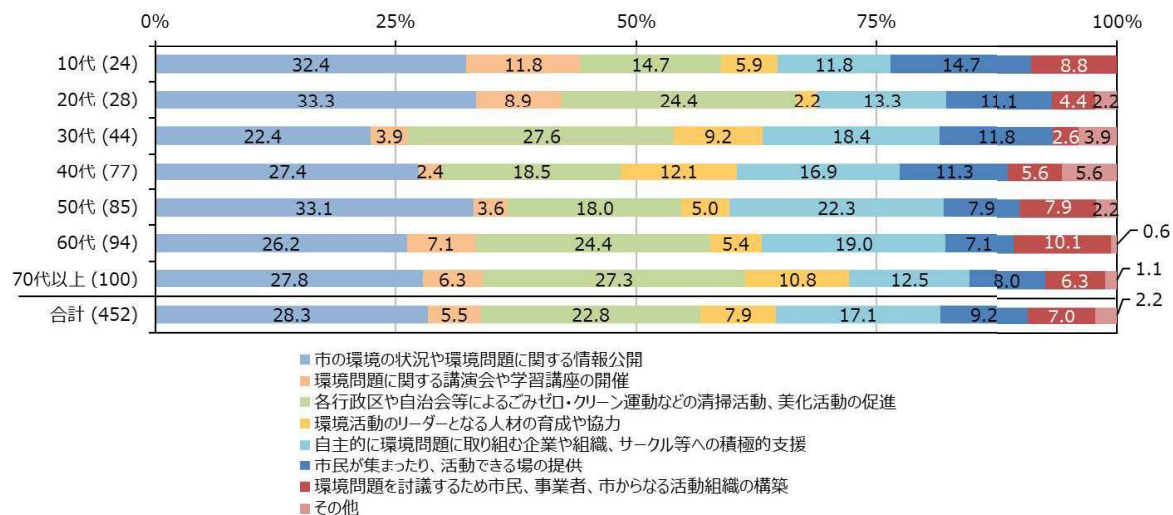


図 2-4-47 問 11 の過年度比較

<クロス集計>

■年代別クロス集計

年代別では、「市の環境の状況や環境問題に関する情報公開」、「各行政区や自治会等によるごみゼロ・クリーン運動などの清掃活動・美化活動の促進」は全ての世代で回答した割合が高い。「環境問題に関する講演会や学習講座の開催」は10・20代で他の年代よりも回答した割合が高い。

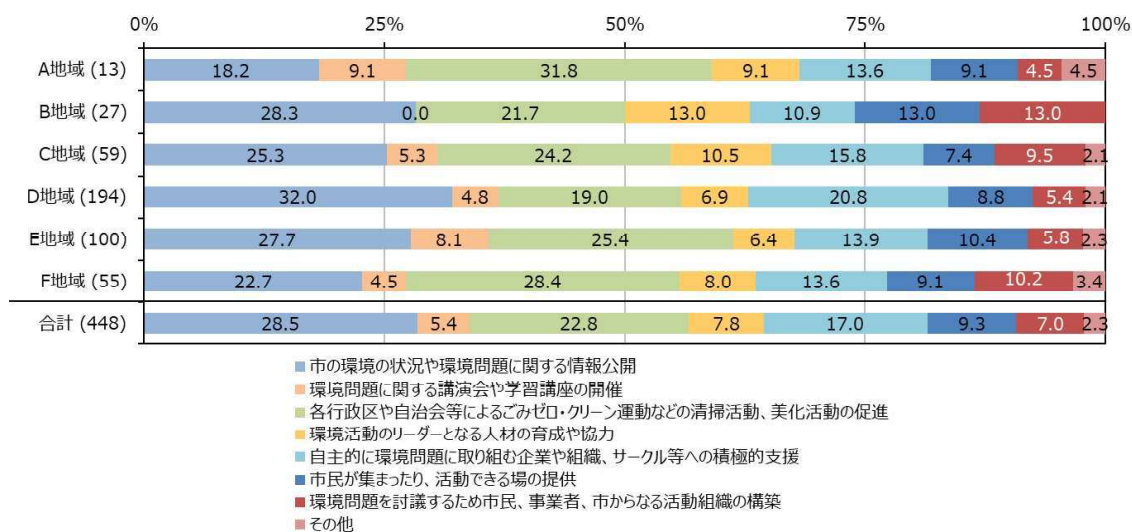


()内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-48 問 11 のクロス集計結果（年代別）

■地域別クロス集計

地域別では、比較的若年層の多いB・D地域において、「市の環境の状況や環境問題に関する情報公開」と回答した割合が高い。



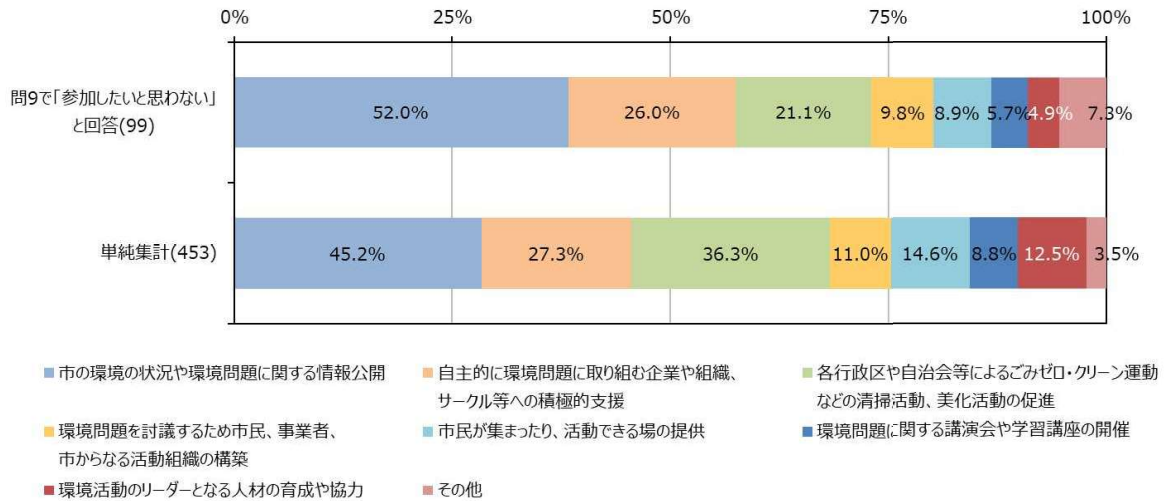
()内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-49 問 11 のクロス集計結果（地域別）

■参加してみたい自主的な環境づくり活動（問9）とのクロス集計

環境づくり活動への参加を促すために、問9において環境づくり活動に「参加したくない」と回答した市民が、問11において、市民が環境づくりに参加するために市が重点的に取り組むべきこととしている活動を分析する。

下図より、問9において環境づくり活動に「参加したくない」と回答した市民の52.0%が、市の環境の状況や環境問題に関する情報公開を求めており、これは単純集計の結果よりも多い割合となっている。



()内数値：有効回答者数（複数回答）

N = 123 （複数回答）

図 2-4-50 環境づくりに参加したくない（問9）と環境づくりに参加するために市がすべきこと（問11）のクロス集計結果

問 12 白岡市の環境を守り改善していくために望ましい役割分担【単独回答】

＜単純集計＞

「市民、事業者、市がそれぞれの責任を果たすとともに、三者が協力しながら環境を守り、育てる」が最も多く 40.4%、次いで「市が主体となって環境を守るための仕事をし、市民や事業者は協力する」が 39.4%となった。

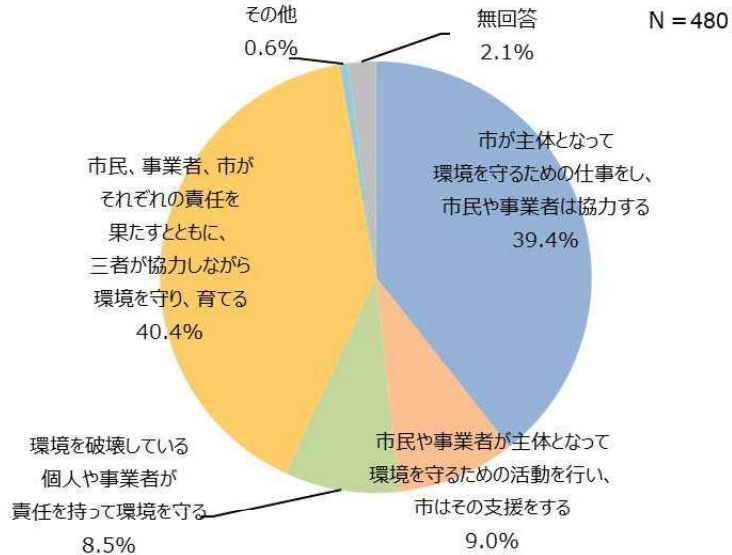
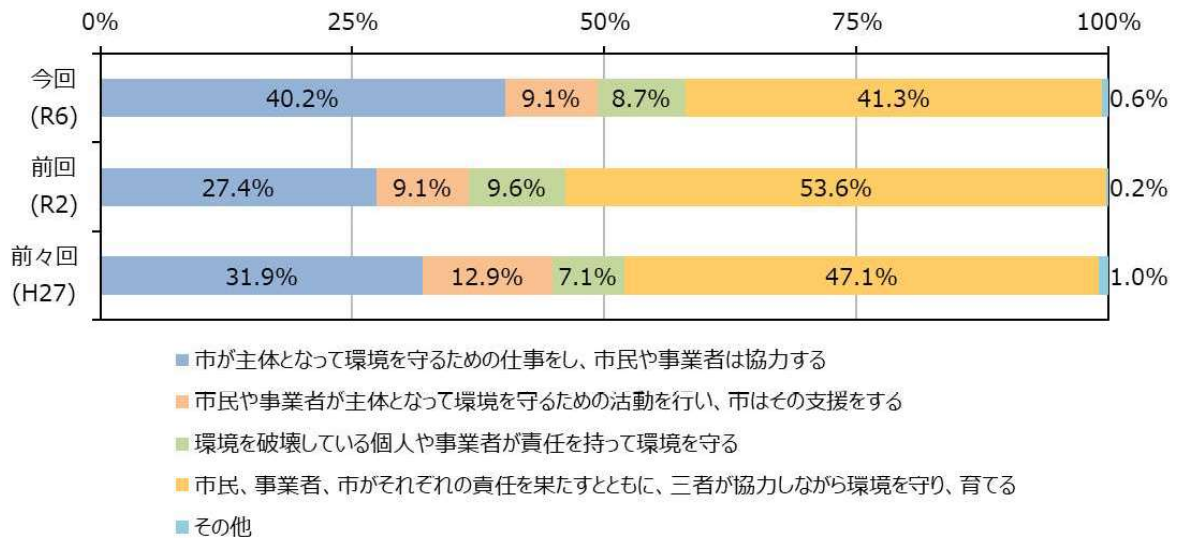


図 2-4-51 問 12 の単純集計結果

＜経年比較＞

「市民、事業者、市がそれぞれの責任を果たすとともに、三者が協力しながら環境を守り、育てる」がどの回も最も多いが、今回は「市が主体となって環境を守るための仕事をし、市民や事業者は協力する」の割合が上がっており、市への期待が高まっている。



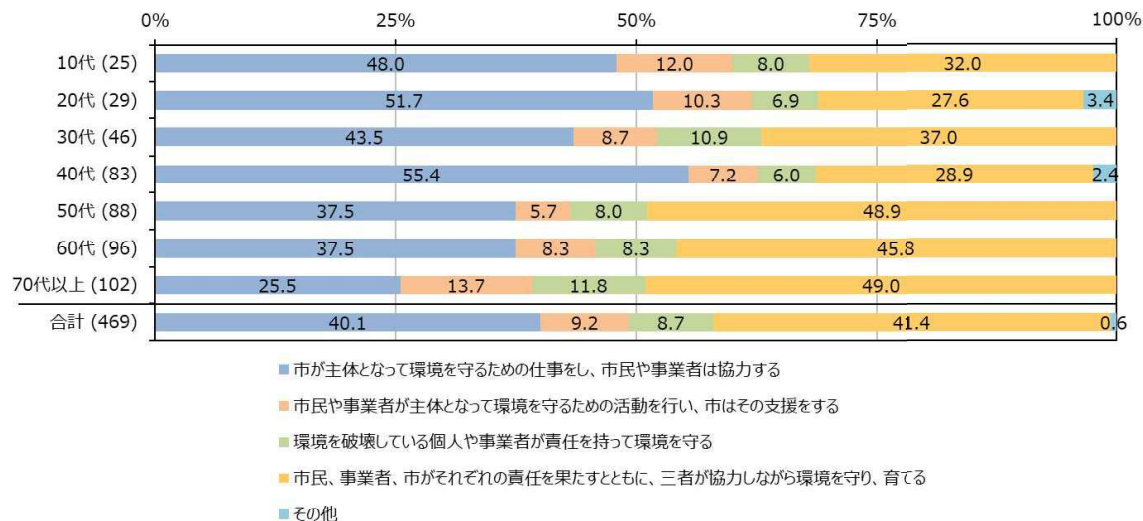
有効回答者数：今回470 前回416 前々回310

図 2-4-52 問 12 の過年度比較

<クロス集計>

■年代別クロス集計

年代別では、10～40代では「市が主体となって環境を守るための仕事をし、市民や事業者は協力する」が最も多く、50代以上では「市民、事業者、市がそれぞれの責任を果たすとともに、三者が協力しながら環境を守り、育てる」が最も多い。

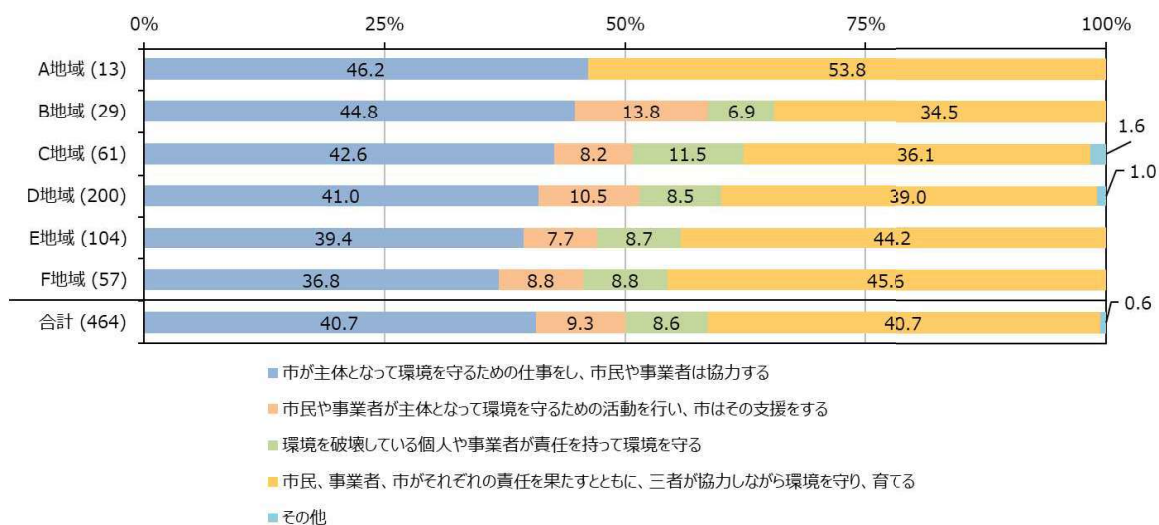


()内数値：有効回答者数

図 2-4-53 問 12 のクロス集計結果（年代別）

■地域別クロス集計

地域別では、「市が主体となって環境を守るための仕事をし、市民や事業者は協力する」、「市民、事業者、市がそれぞれの責任を果たすとともに、三者が協力しながら環境を守り、育てる」を回答する割合は年齢で差が出たにもかかわらず、ほとんど差がない。



()内数値：有効回答者数

図 2-4-54 問 12 のクロス集計結果（地域別）

(4) 市の環境行政の在り方について

問 13 環境基本計画の施策の効果【単独回答】

<単純集計>

全ての項目で「よくわからない」が50%以上となっており、施策の効果に関する情報の周知が課題となる。「安心安全で環境にやさしいごみ処理の推進」、「3R（リユース、リデュース、リサイクル）の推進」、「歴史・文化の保護」に関しては、「効果があったと思う」と回答した割合が、「効果があったとは思えない」よりも20%近く高く、効果を実感している市民が多い。一方、「水質環境の保全」、「すぐれた景観の確保」、「温暖化対策に向けた緩和策の推進」、「騒音・振動の防止」、「ごみの不法投棄の防止」については「効果があったとは思えない」と回答した割合の方が「効果があったと思う」と回答した割合よりも多い。

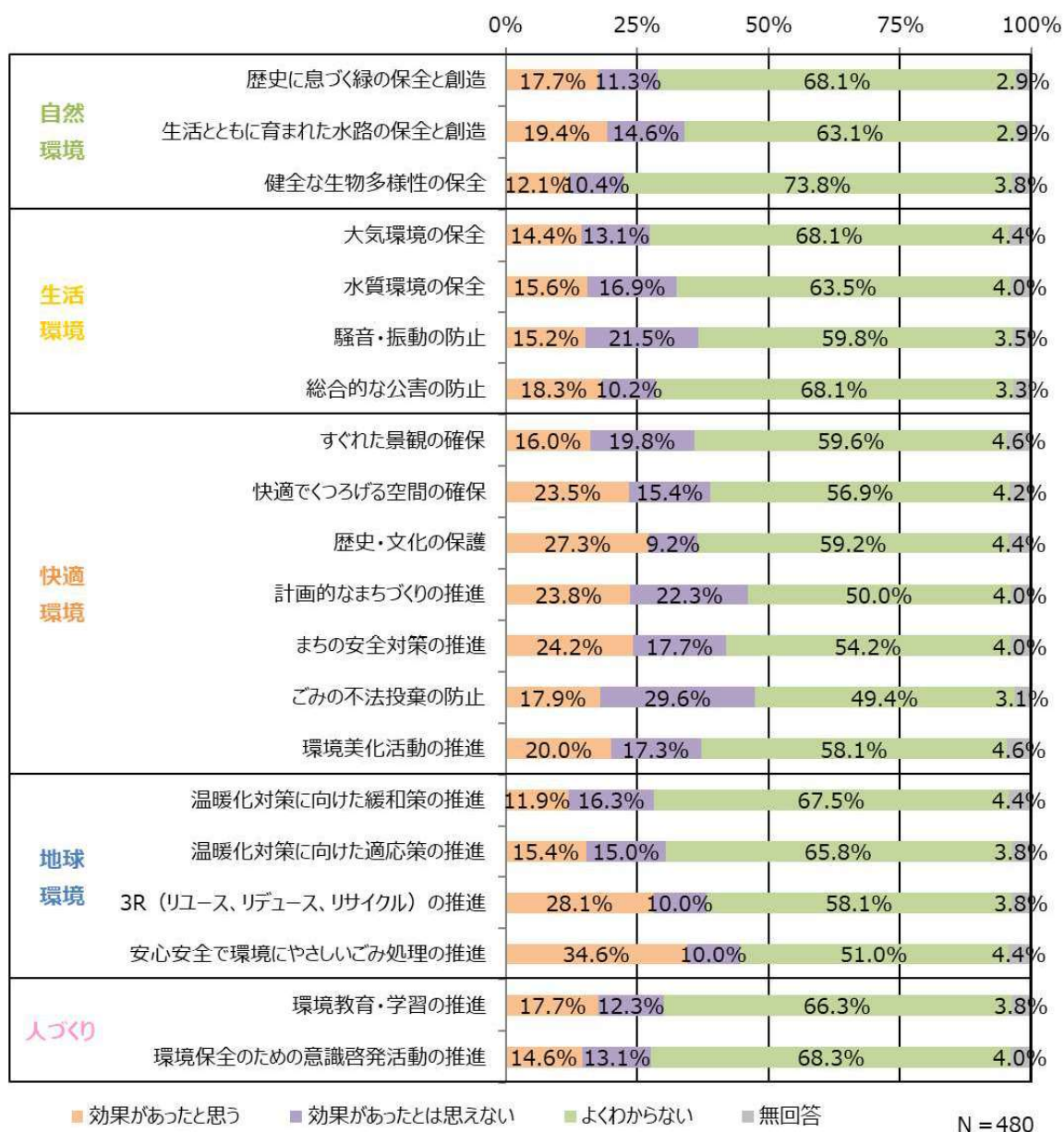


図 2-4-55 問 12 の単純集計結果

それぞれの施策について、「効果があったと思う」と回答した割合が、「効果があったとは思えない」に着目すると、特に安心安全で環境にやさしいごみ処理の推進、3R（リユース、リデュース、リサイクル）の推進、歴史・文化の保護では「効果があったと思う」と回答した割合の方が「効果があったとは思えない」と回答した割合よりも15%以上高い。一方で、水質環境の保全、すぐれた景観の確保、温暖化対策に向けた緩和策の推進、騒音・振動の防止、ごみの不法投棄の防止に関しては「効果があったと思う」と回答した割合よりも「効果があったとは思えない」と回答した割合の方が高い。

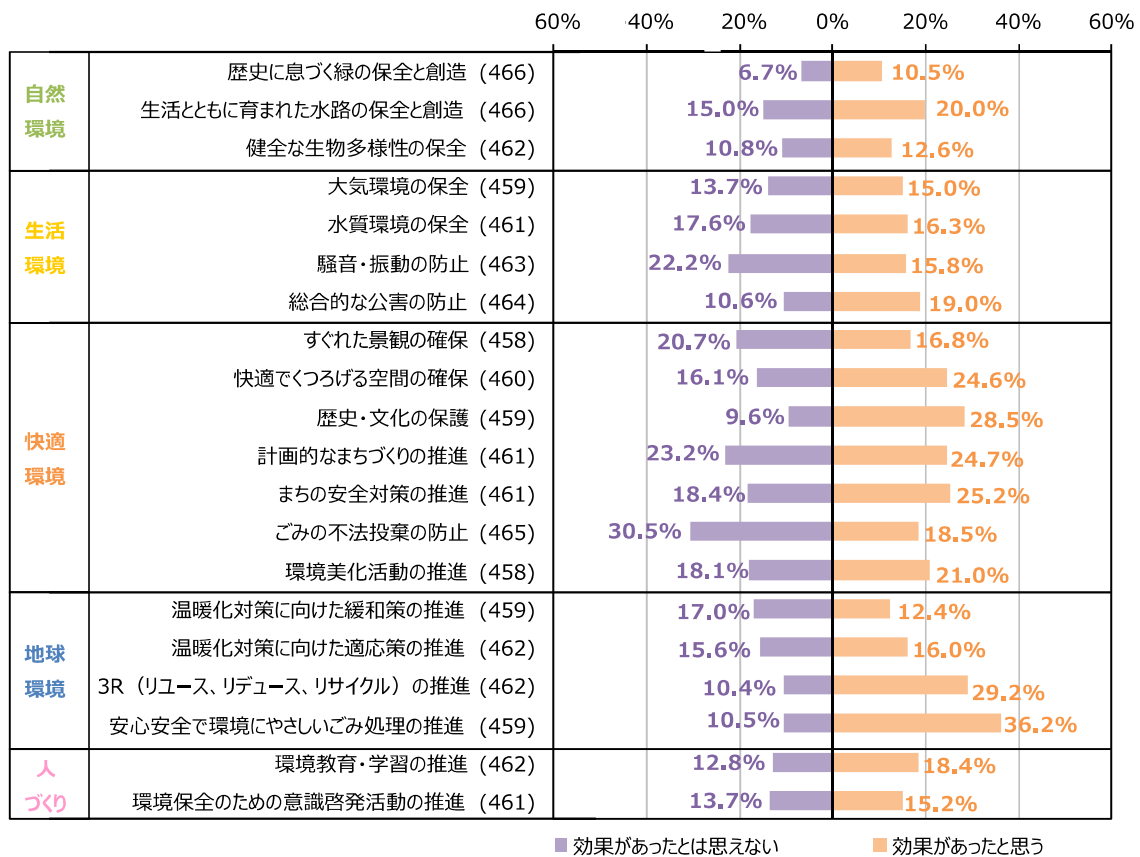
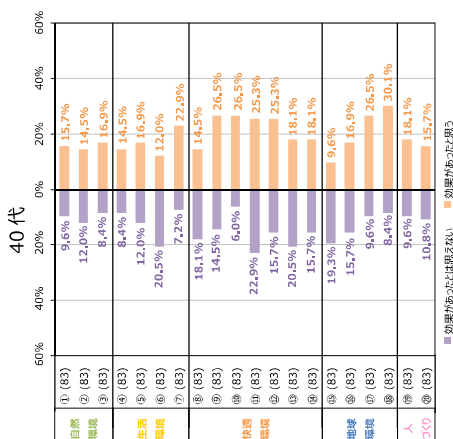
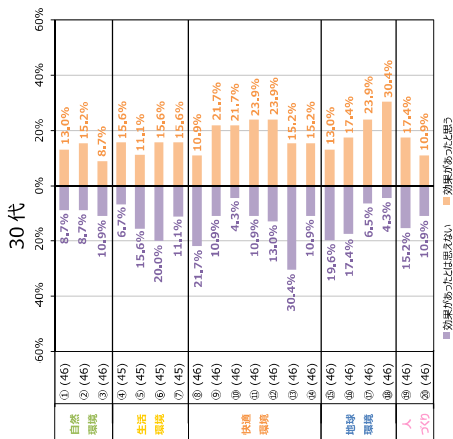
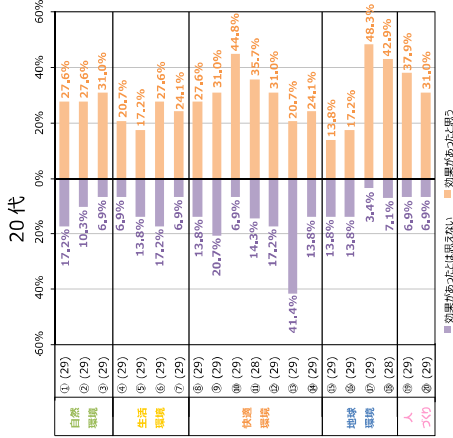
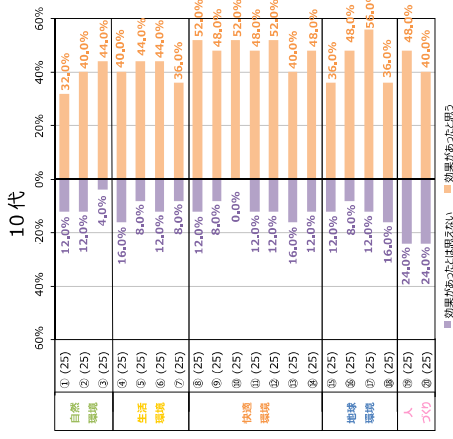


図 2-4-56 問 12 の単純集計結果（抜粋）

＜クロス集計＞

■年代別クロス集計（年代ごと）

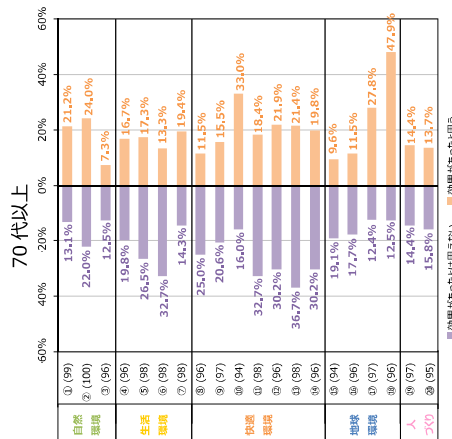
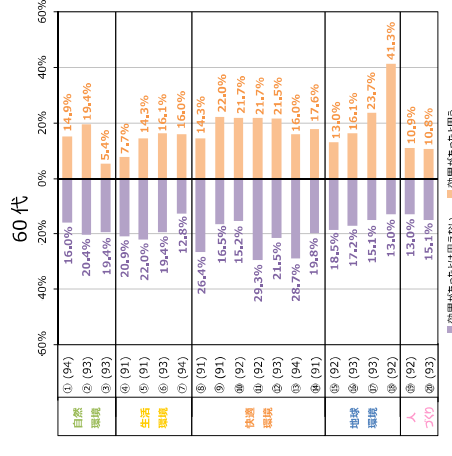
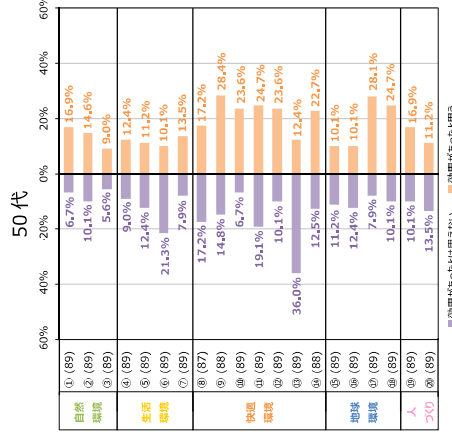


10代では全ての施策において、「効果があつたと思う」と回答した割合が高いが、⑱、⑳の人づくりでは、他の年代に比べ「効果があつたと思わない」と回答した割合が高く、次世代への教育・啓発が課題となる。

20代では、⑮、⑯の総称対策、適応策の推進において、「効果があつたと思う」と回答した割合が低い。⑲、⑳の人づくりで結果が異なり、「効果があつたと思う」と回答した割合が高い。

30代では、20代と同様の傾向が見られたが、⑧の優れた景観の確保において、「効果があつたと思わない」と回答した割合が「効果があつたと思う」と回答した割合よりも高い。なお、30代以上でも⑧において同様の傾向が見られる。

40代では、⑥の騒音・振動の防止、⑩の計画的なまちづくりの推進において、「効果があつたと思わない」と回答した割合が高い。なお、40代以上でも同様の傾向が見られる。



- ① 歴史に息づく緑の保全と創造
- ② 生活とともに育まれた水路の保全と創造
- ③ 健全な生物多様性の保全
- ④ 大気環境の保全
- ⑤ 水質環境の保全
- ⑥ 騒音・振動の防止
- ⑦ 総合的な公害の防止
- ⑧ すくねた景観の確保
- ⑨ 快適でくつろげる空間の確保
- ⑩ 歴史・文化の保護
- ⑪ 計画的なまちづくりの推進
- ⑫ まちの安全対策の推進
- ⑬ こまの不法投棄の防止
- ⑭ 環境美化活動の推進
- ⑮ 温暖化対策に向けた緩和策の推進
- ⑯ 温暖化対策に向けた適応策の推進
- ⑰ 3R（リユース、リデュース、リサイクル）の推進
- ⑱ 安心安全で環境にやさしいごみ処理の推進
- ⑲ 環境教育・学習の推進
- ⑳ 環境保全のための意識啓発活動の推進

50代では、③のごみの不法投棄の防止において、他の施策に比べ「効果があつたと思わない」と回答した割合が高い。⑨の快適でくつろげる空間の確保では30代から50代において「効果があつたと思う」と回答した割合が高い。

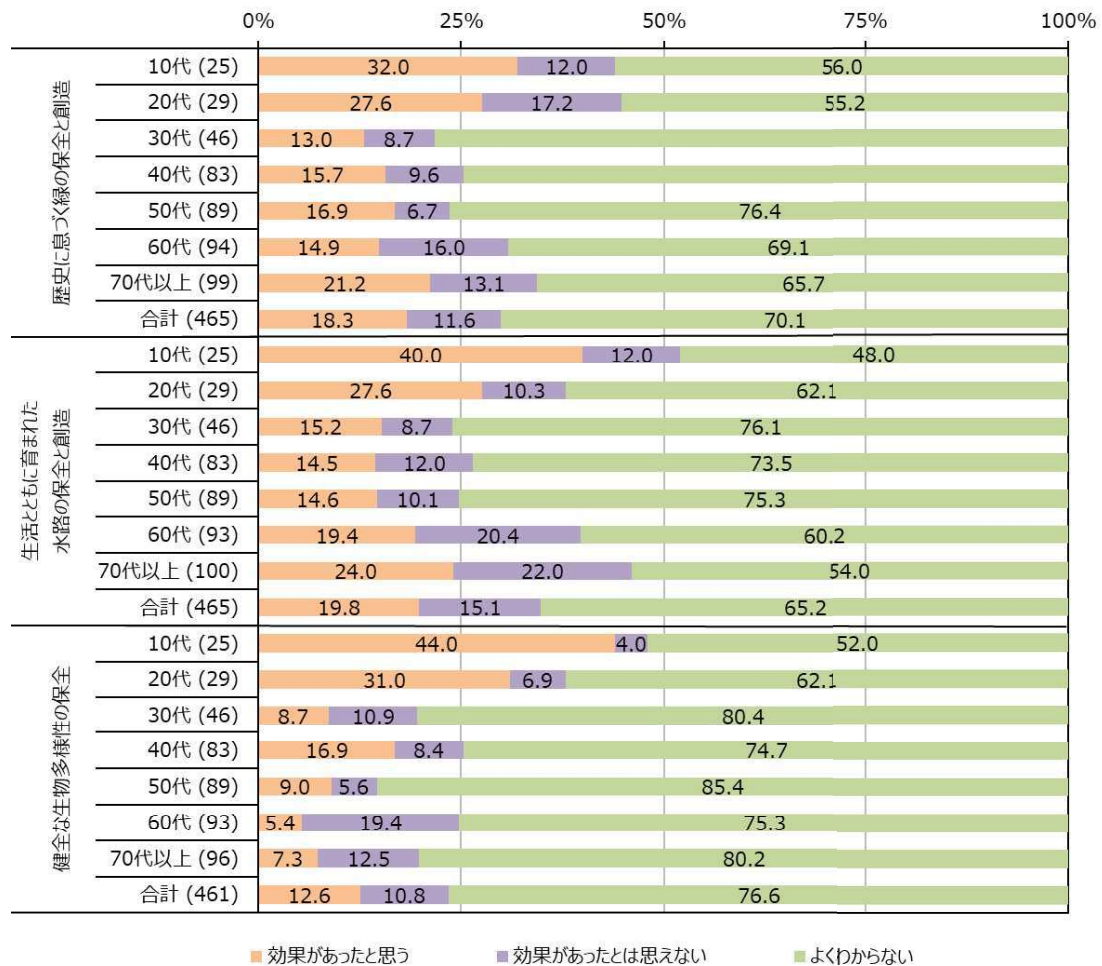
60代では、③の健全な生物多様性の保全において、「効果があつたと思う」と回答した割合が低い。⑯の安心安全で環境にやさしいごみ処理の推進では、「効果があつたと思う」と回答する割合が高い。

70代以上では、⑩の歴史・文化の保護を除く快適環境において、「効果があつたと思わない」と回答した割合が低い。「効果があつたと思う」と回答する割合が高い。

図 2-4-57 問 13 のクロス集計結果（年代ごと）

■年代別クロス集計（施策ごと）

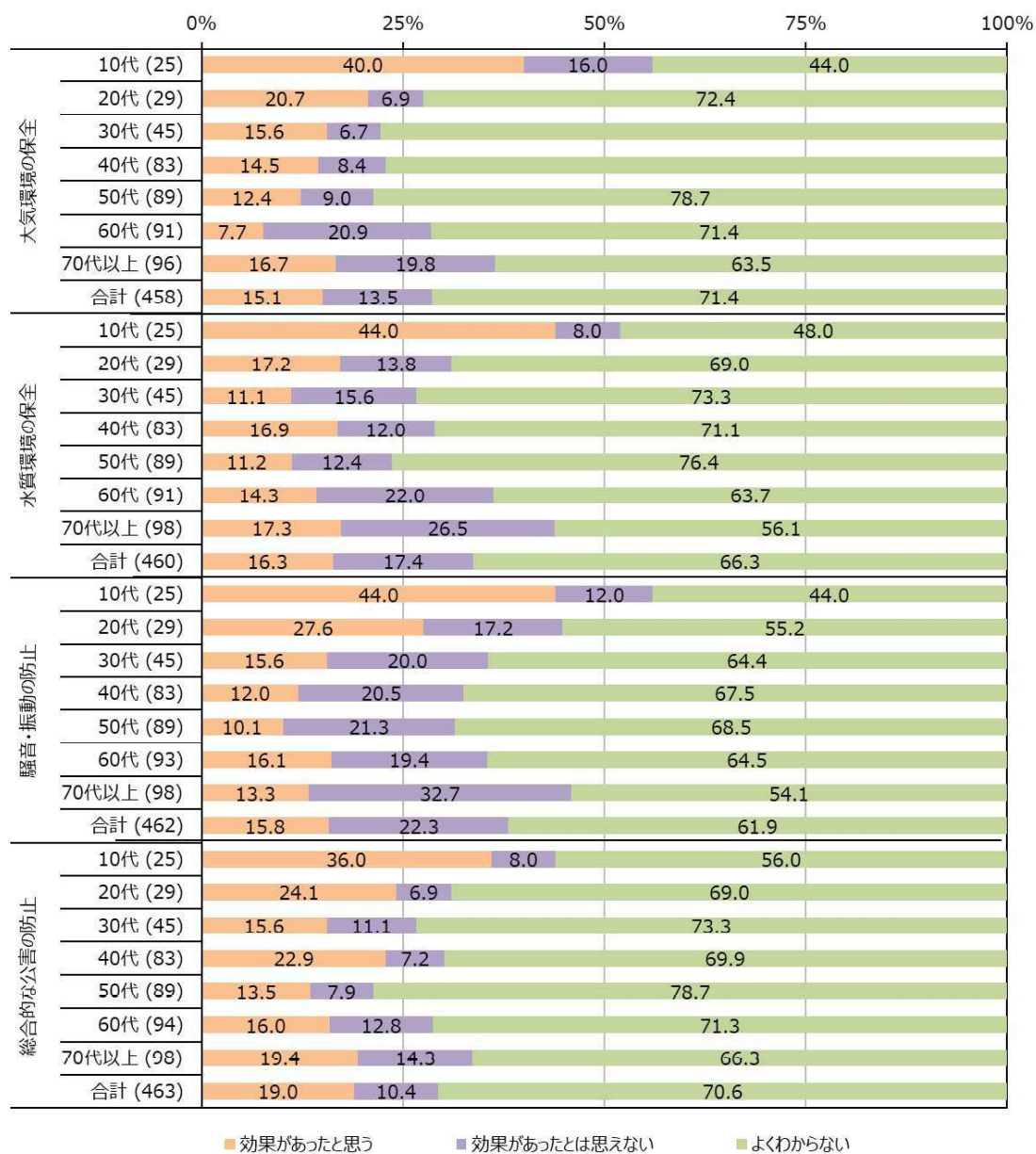
年代別では、自然環境については、10・20代で「効果があったと思う」と回答した割合が多い傾向にある。



()内数値：有効回答者数

図 2-4-58 問 13 のクロス集計結果（年代別,自然環境）

生活環境については、全年代で「効果があったと思う」と回答した割合が多い総合的な公害の防止を除き、60代以上では「効果があったとは思えない」と回答した割合の方が「効果があったと思う」と回答した割合よりも多い。

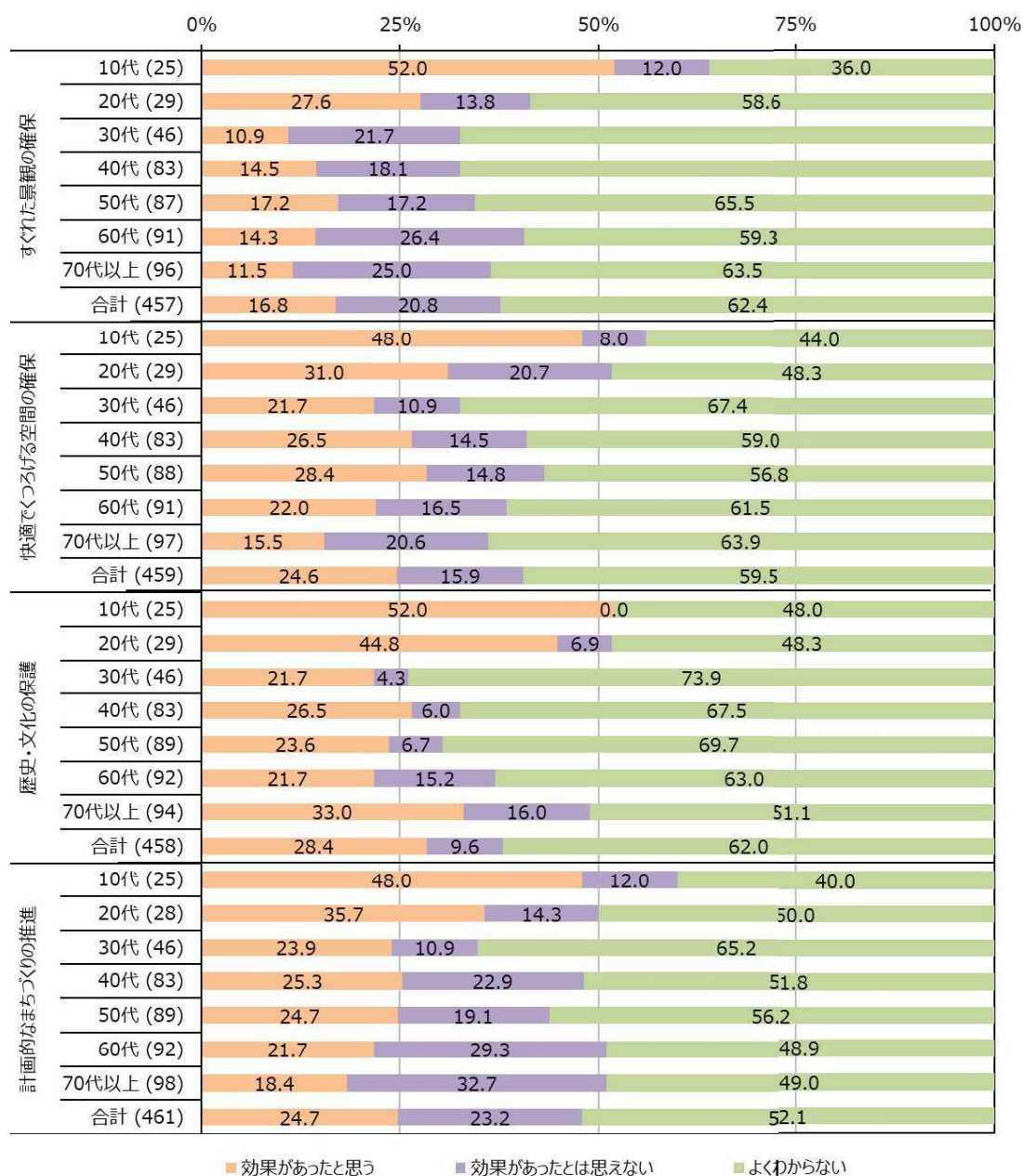


()内数値：有効回答者数

図 2-4-59 問 13 のクロス集計結果 (年代別,生活環境)

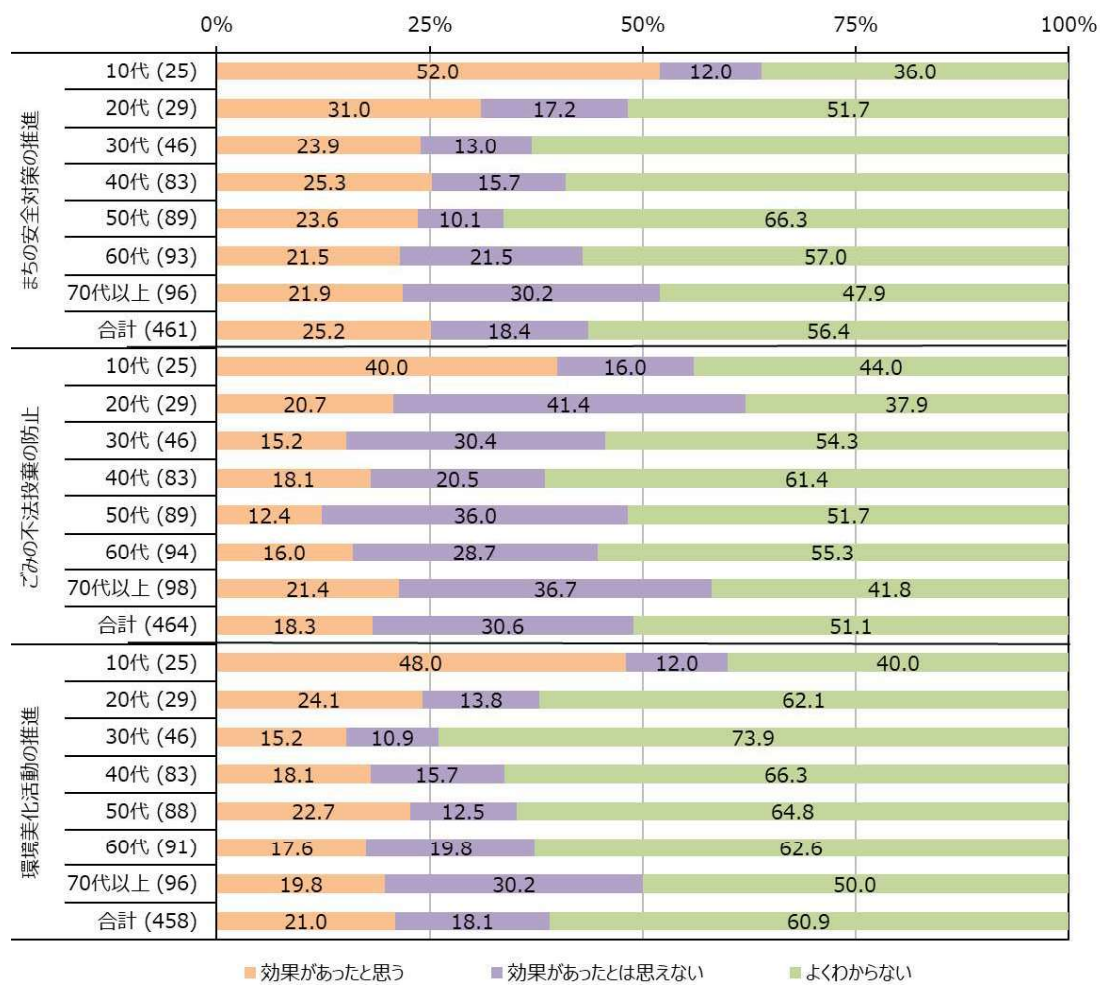
快適環境については、全年代で「効果があったと思う」と回答した割合が多い歴史・文化の保護、快適でくつろげる空間の確保を除き、60代以上では「効果があったとは思えない」と回答した割合の方が「効果があったと思う」と回答した割合よりも多い。

ごみの不法投棄の防止では20代以上、優れた景観の確保では30代以上、計画的なまちづくりの推進では40代以上において「効果があったとは思えない」と回答した割合が高くなる。



()内数値：有効回答者数

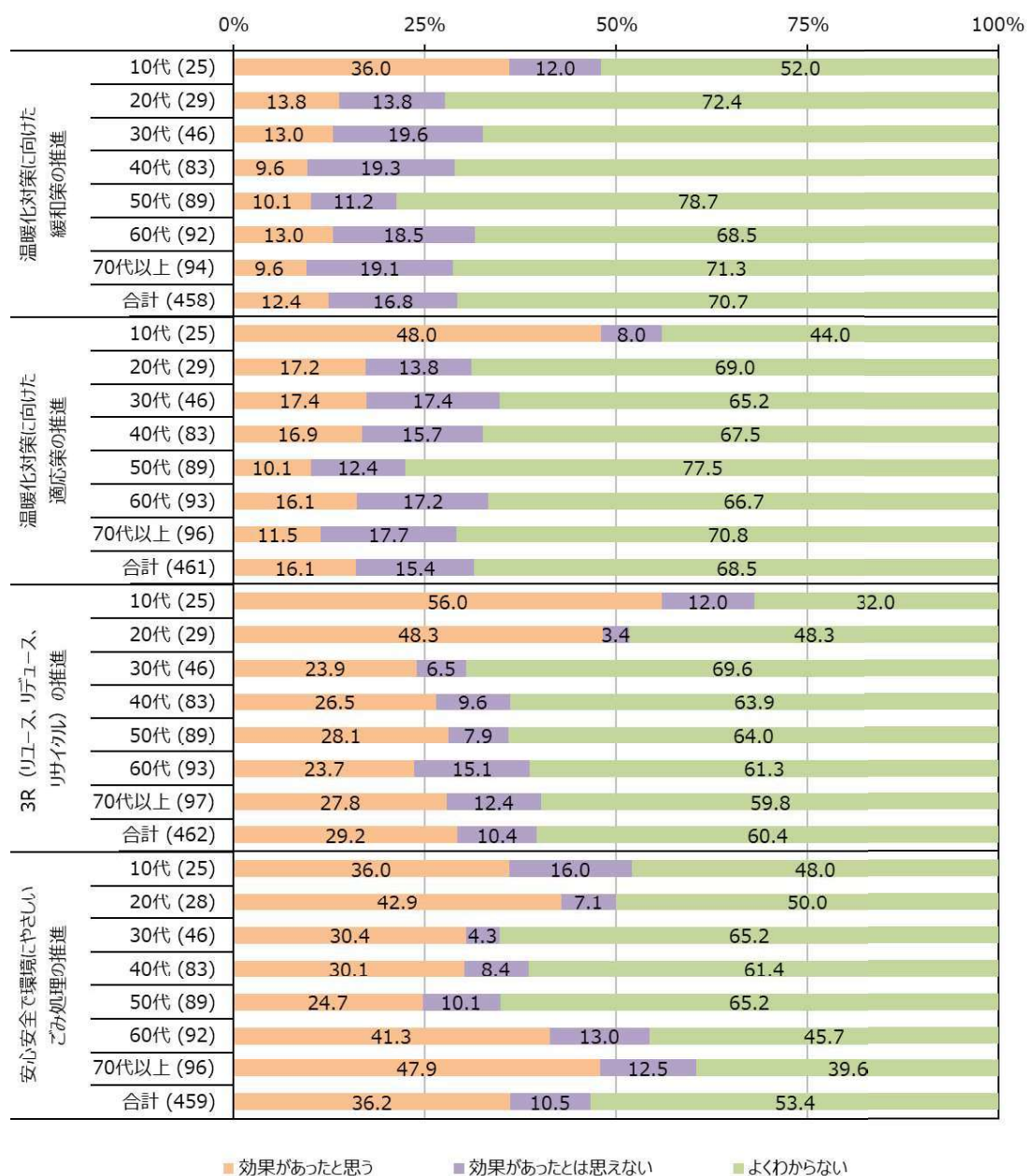
図 2-4-60 問 13 のクロス集計結果（年代別,快適環境-I）



()内数値：有効回答者数

図 2-4-61 問 13 のクロス集計結果 (年代別,快適環境-Ⅱ)

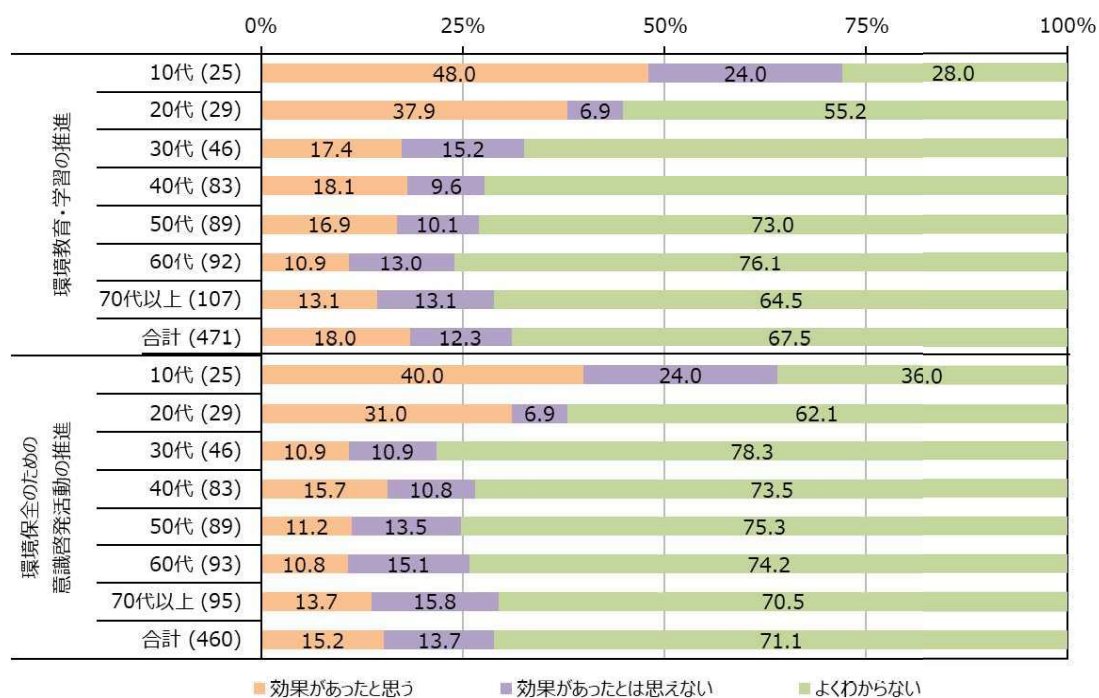
地球環境については、緩和策の推進、適応策の推進共に、10代を除いた全年代で「効果があったと思う」と回答した割合と「効果があったとは思えない」と回答した割合が拮抗している。安心安全で環境にやさしいごみ処理の推進では、全年代で「効果があったと思う」と回答した割合の方が「効果があったとは思えない」と回答した割合よりも多い。



()内数値：有効回答者数

図 2-4-62 問 13 のクロス集計結果 (年代別,地球環境)

人づくりについては、10・20代で「効果があったと思う」と回答した割合が高いが、10代では「効果があったとは思えない」と回答した割合も他の年代と比べて高い。

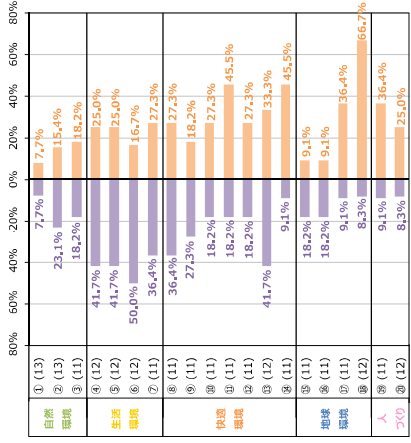


()内数値：有効回答者数

図 2-4-63 問 13 のクロス集計結果 (年代別,人づくり)

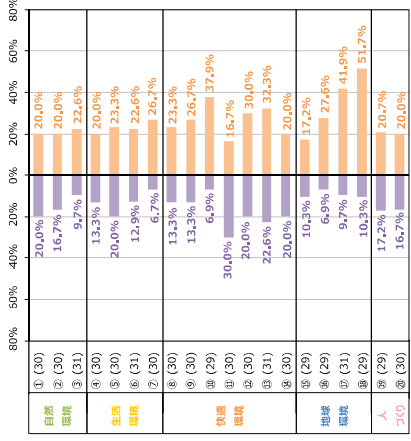
■地域別クロス集計（地域ごと）

A 地域



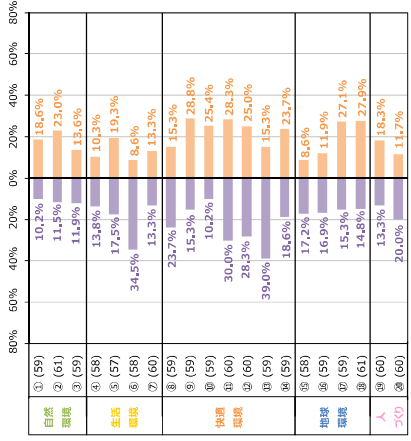
A 地域では④からの生活環境において、「効果があったと思えない」と回答した割合が高い。一方で、⑩の計画的なまちづくりの推進、⑭の環境美化活動の推進では、「効果があったと思う」と回答した割合が高い。

B 地域



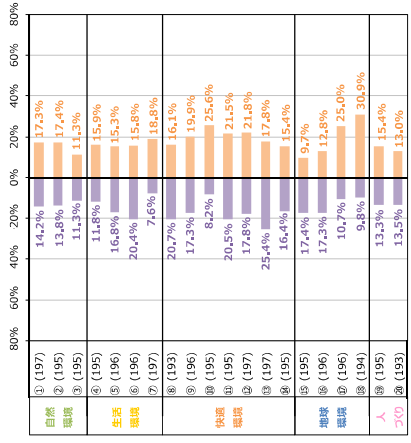
B 地域では、⑩の計画的なまちづくりの推進において、「効果があったと思えない」と回答した割合が高い。一方で、⑩の歴史・文化の保護では、「効果があったと思う」と回答した割合が高い。

C 地域



C 地域では、⑥の騒音・振動の防止において、「効果があったと思えない」と回答した割合が高い。⑰、⑱の 3R（リユース、リデュース、リサイクル）の推進、安心安全で環境にやさしいごみ処理の推進では「効果があったと思う」と回答した割合が低い。

D 地域



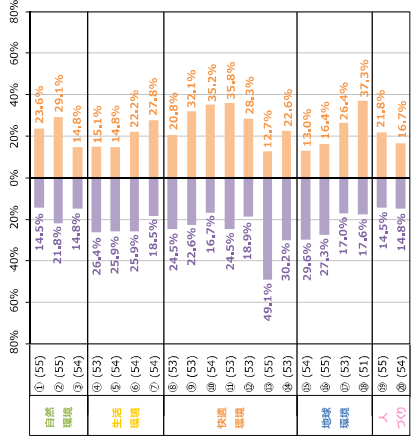
D 地域では、全ての施策において、「効果があったと思う」と「効果があったと思えない」も回答した割合が低く、「よくわからない」と回答した割合が高い。

E 地域



E 地域では、①の歴史に息づく緑の保全と創造において、「効果があったと思う」と回答する割合が高く、「効果があったと思えない」と回答した割合が低い。

F 地域



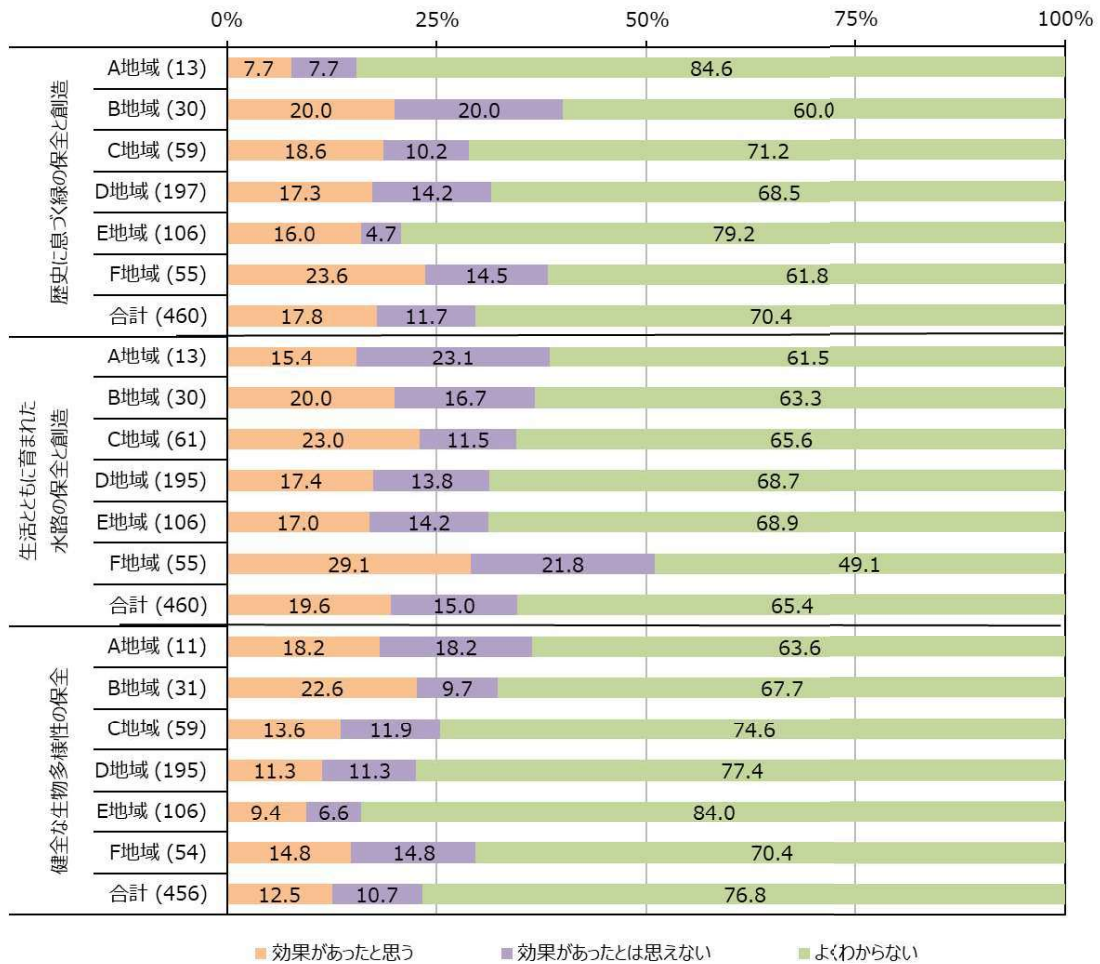
F 地域では、⑩の不法投棄の防止において、「効果があったと思う」と回答した割合が低く、「効果があったと思えない」と回答する割合が高い。⑮、⑯の温暖化対策に向けた緩和策、適応策において、「効果があったと思えない」と回答した割合が高い。

①	歴史に息づく緑の保全と創造
②	生活とともに育まれた水路の保全と創造
③	健全な生物多様性の保全
④	大気環境の保全
⑤	水質環境の保全
⑥	騒音・振動の防止
⑦	総合的な公害の防止
⑧	すぐれた景観の確保
⑨	快適でくつろげる空間の確保
⑩	歴史・文化の保護
⑪	計画的なまちづくりの推進
⑫	まちの安全対策の推進
⑬	ごみの不法投棄の防止
⑭	環境美化活動の推進
⑮	温暖化対策に向けた緩和策の推進
⑯	温暖化対策に向けた適応策の推進
⑰	3R（リユース、リデュース、リサイクル）の推進
⑱	安心安全で環境にやさしいごみ処理の推進
⑲	環境教育・学習の推進
⑳	環境保全のための意識啓発活動の推進

図 2-4-64 問13のクロス集計結果（地域別）

■地域別クロス集計（施策ごと）

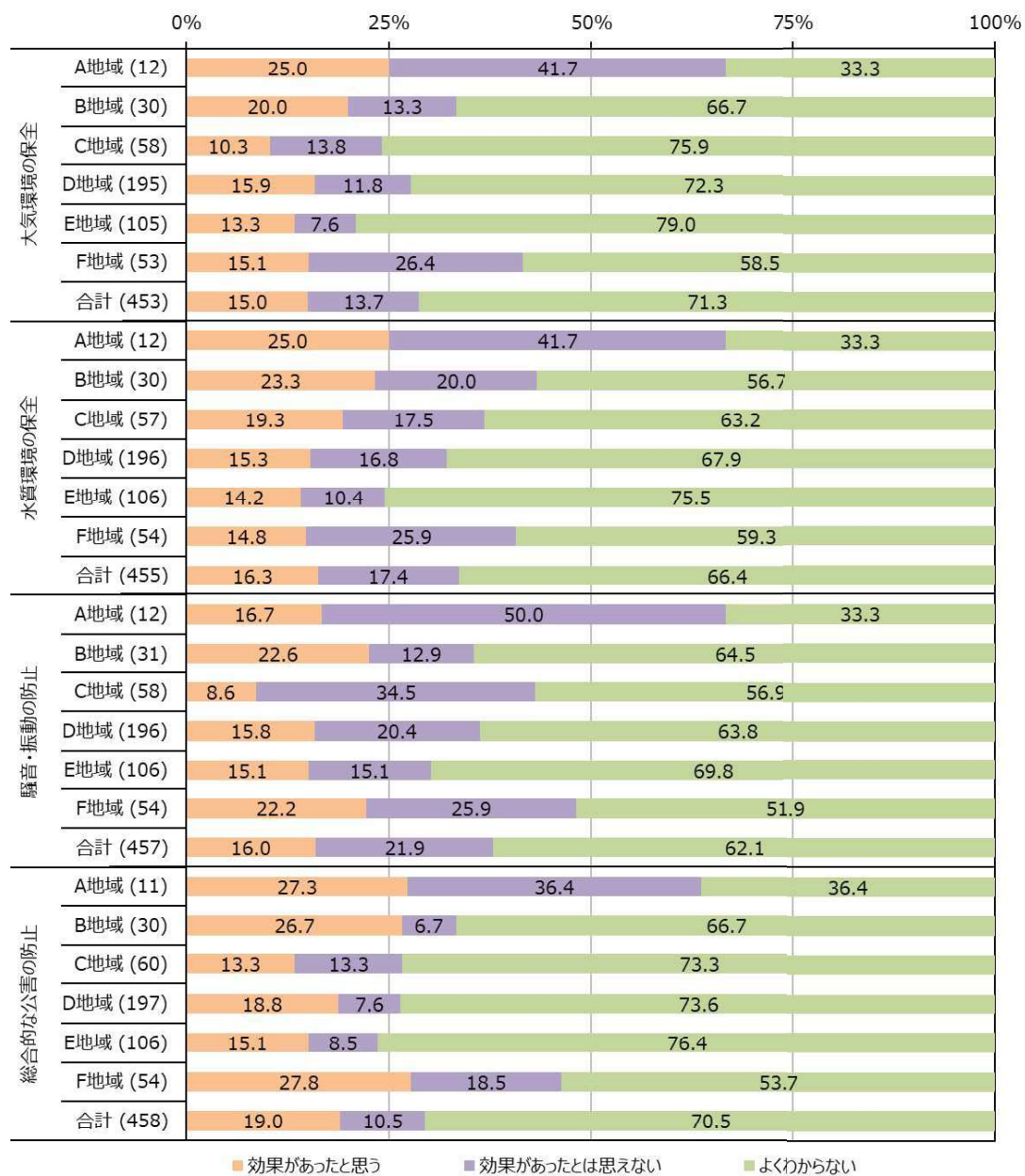
地域別では、隼人堀川、姫宮落川周辺に田畑と住宅地が入り組んでいる F 地域において、生活と共に育まれた水路の保全と創造で「効果があったと思う」と回答した割合が高い。



()内数値：有効回答者数

図 2-4-65 問 13 のクロス集計結果（地域別,自然環境）

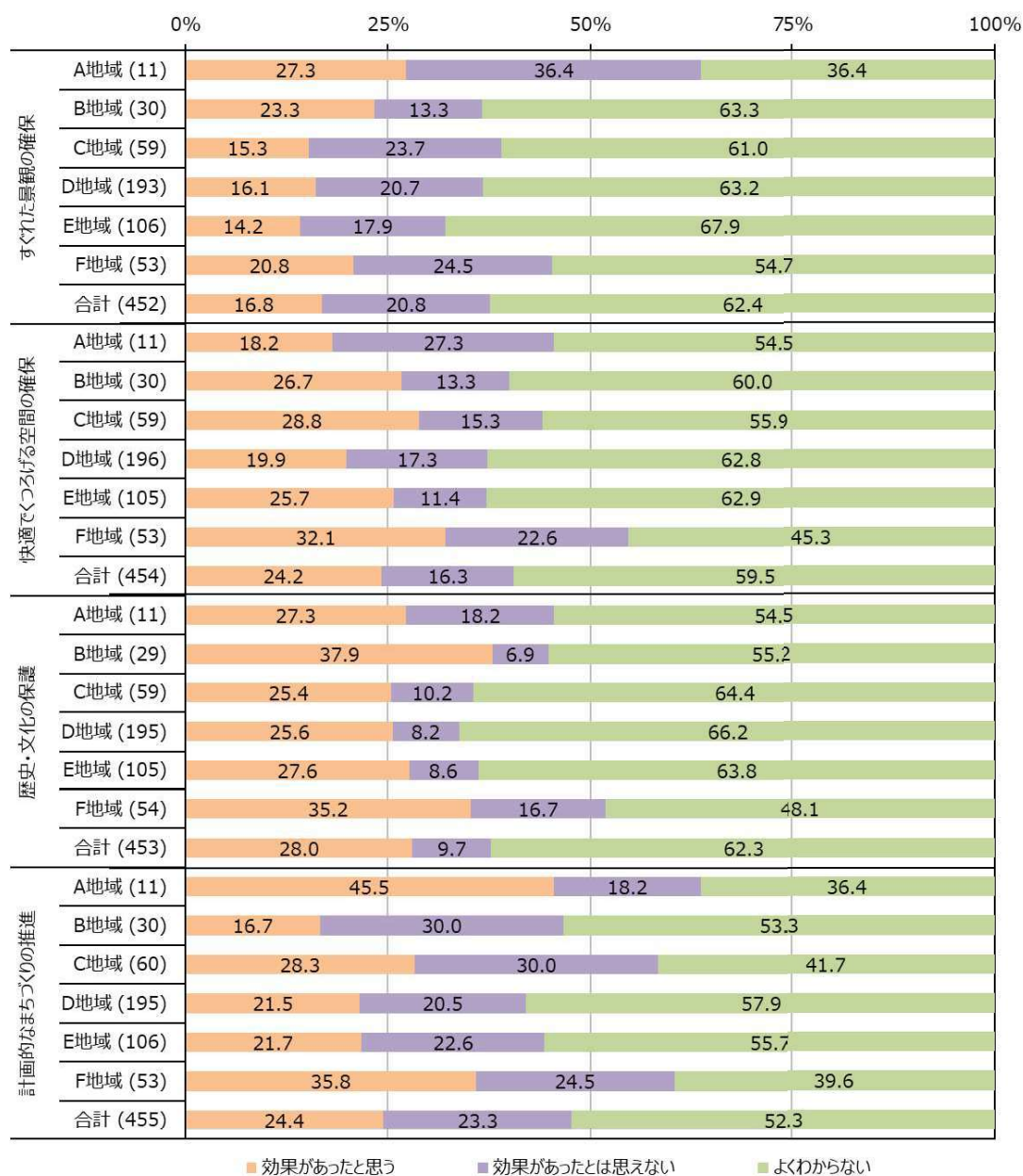
生活環境では、60代以上が多いA地域において「効果があったとは思えない」と回答した割合が高い傾向が見られた。



()内数値：有効回答者数

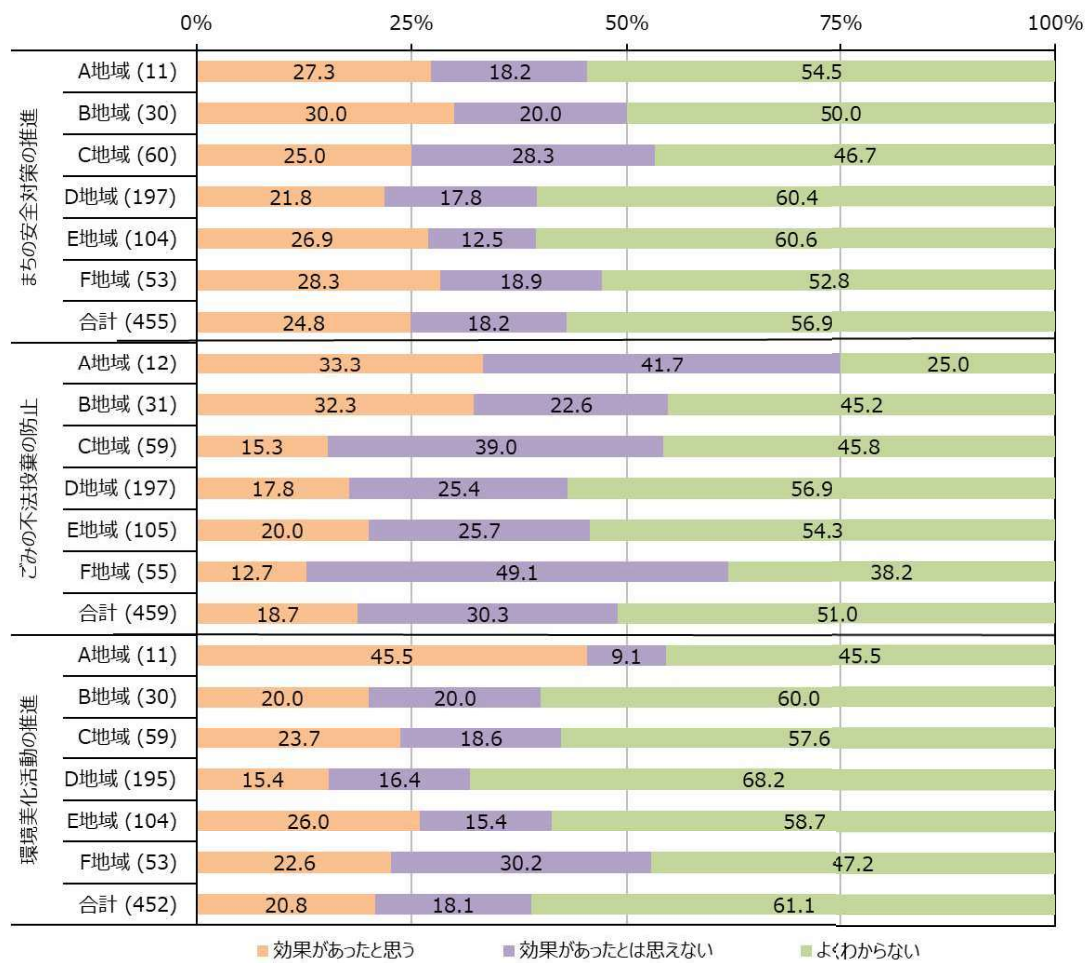
図 2-4-66 問 13 のクロス集計結果 (地域別,生活環境)

快適環境では、60代以上が多いA地域において優れた景観の確保で「効果があったとは思えない」と回答した割合が高く、計画的なまちづくりの推進、環境美化活動の推進で「効果があったと思う」と回答した割合が高い傾向が見られた。



()内数値：有効回答者数

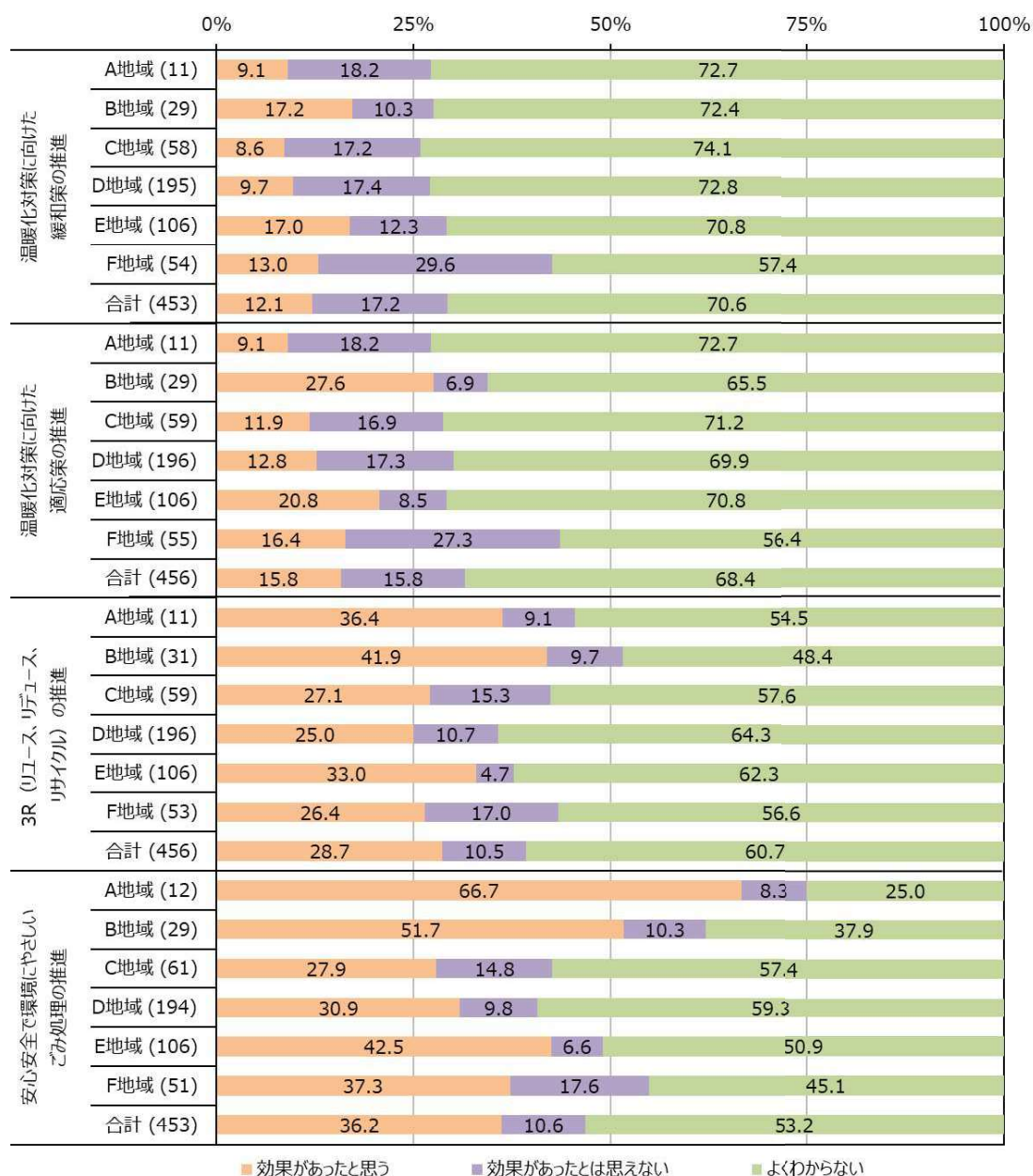
図 2-4-67 問 13 のクロス集計結果 (地域別, 快適環境-I)



()内数値：有効回答者数

図 2-4-68 問 13 のクロス集計結果（地域別,快適環境-Ⅱ）

地球環境では、60代以上が多いA地域において、安全安心で環境にやさしいごみ処理の推進で「効果があったと思う」と回答した割合が高い傾向が見られた。また、温暖化対策に向けた緩和策、適応策では、F地域において「効果があったとは思えない」と回答した割合が高い。



()内数値：有効回答者数

図 2-4-69 問 13 のクロス集計結果 (地域別,地球環境)

人づくりについては、環境教育・学習の推進では A 地域において「効果があったと思う」と回答した割合が高く、環境保全のための意識啓発活動の推進では A 地域・B 地域において「効果があったと思う」と回答した割合が高い。

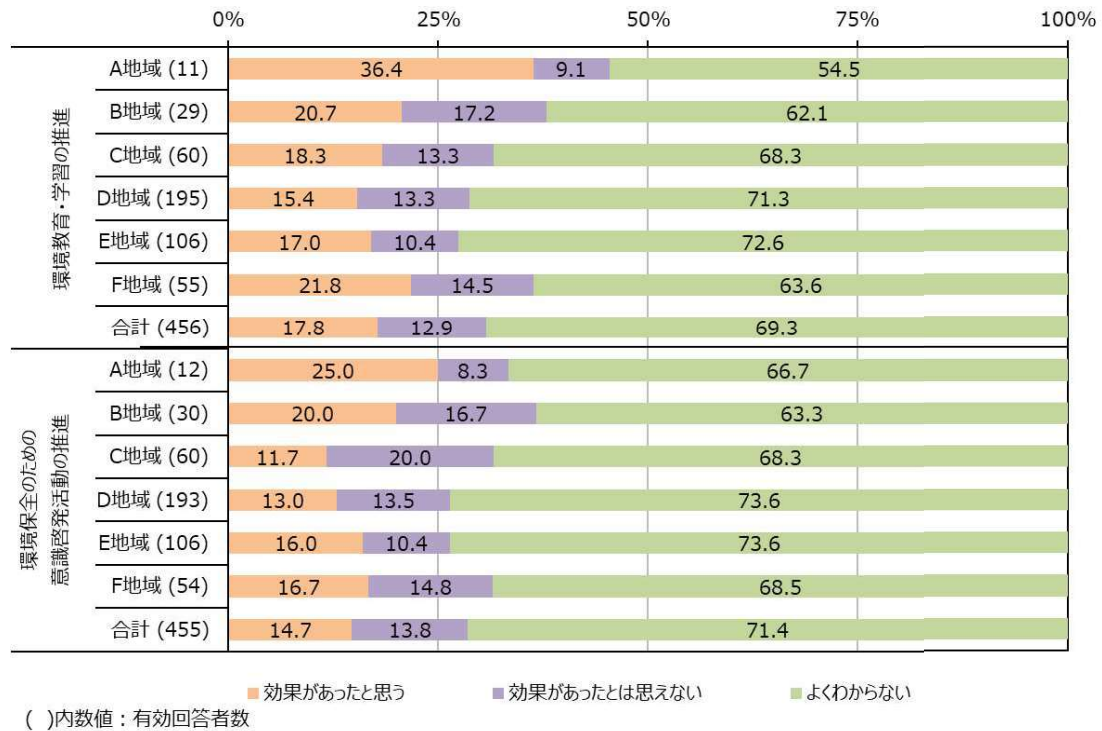


図 2-4-70 問 13 のクロス集計結果（地域別,人づくり）

■居住する地域を中心とした環境の快適さ（問 1）と施策の効果（問 13）のクロス集計

より良い環境とするために、問 1 において居住する地域を中心とした環境の快適さが、「快適な環境でない」、「どちらかと言えば、快適な環境でない」と回答した市民が、問 13 において、効果を実感していない施策は何か分析する。

下図より、問 1 において「快適な環境でない」、「どちらかと言えば、快適な環境でない」と回答した市民は、全ての施策で「効果があったとは思えない」と回答した割合が高い。

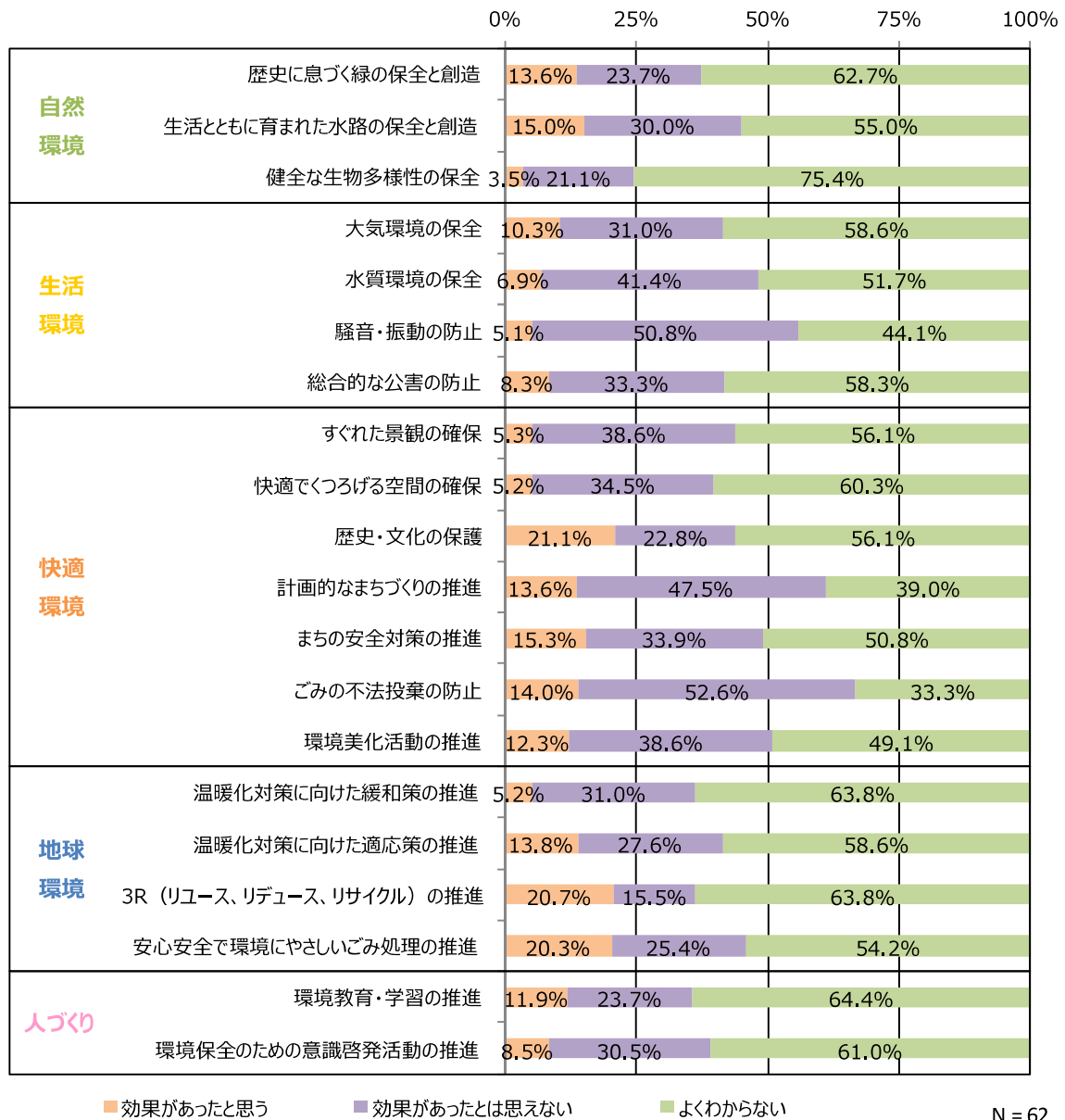


図 2-4-71 居住する地域が快適ではない（問 1）と施策の効果（問 13）のクロス集計結果

前頁より、「効果があったとは思えない」のみを抽出し、回答率が高い順に並べた。下図より、快適環境、生活環境に関する施策で、「効果があったとは思えない」と回答した割合が高く、特に「ごみの不法投棄の防止」「騒音・振動の防止」では、「効果があったとは思えない」と回答した割合が50%を超えており、市の環境を改善するためにこれらの施策を重点的に行う必要がある。

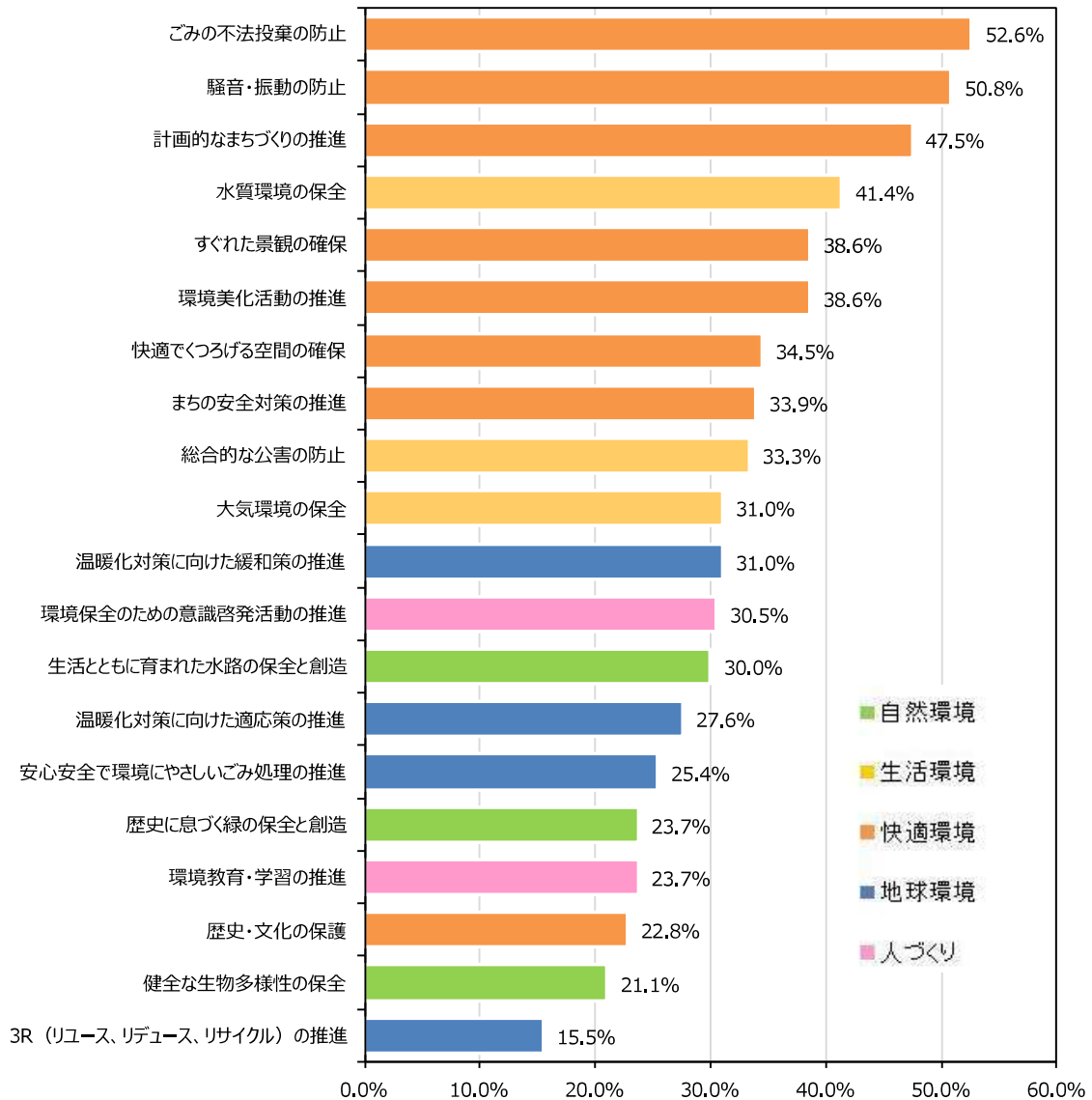


図 2-4-72 居住する地域が快適ではない（問1）と施策の効果（問13）のクロス集計結果（詳細版）